

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード	
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・順列、組合せ、集合、ベノ図、条件付き確率「ビジネス数理(データサイエンス)」 ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「ビジネス数理(データサイエンス)」 ・相関係数、相関関係と因果関係「ビジネス数理(データサイエンス)」 ・ベクトルと行列「ビジネス数理(データサイエンス)」 	
	1-7 <ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムの表現(フローチャート、アクティビティ図)「アルゴリズム」 ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「アルゴリズム」 ・ソートアルゴリズム(バブルソート、選択ソート、挿入ソートなど)「アルゴリズム」 ・探索アルゴリズム(線形探索、二分探索、リスト探索、木探索など)「アルゴリズム」 	
	2-2 <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「AIの活用」 	
	2-7 <ul style="list-style-type: none"> ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「データ分析と統計1」 ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「ビジネス数理(データサイエンス)」 ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「アルゴリズム」 	
	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・データ駆動型社会、Society 5.0「データ分析と統計1」「情報倫理・情報セキュリティ」 ・データサイエンス活用事例(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など)「データ分析と統計1」 	
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「データ分析と統計1」 ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスリクなど)「データ分析と統計1」「データ分析と統計2」 ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)「データ分析と統計1」「データ分析と統計2」 ・データの収集、加工、分割/統合「データ分析と統計1」 	
	2-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「情報倫理・情報セキュリティ」「AIの活用」 ・ビッグデータ活用事例「情報倫理・情報セキュリティ」「AIの活用」 ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス「AIの活用」 ・コンピュータの構成、動作、性能「AIの活用」 	
	3-1 <ul style="list-style-type: none"> ・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「AIの活用」 	
	3-2 <ul style="list-style-type: none"> ・AI倫理、AIの社会的受容性「情報倫理・情報セキュリティ」 ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「情報倫理・情報セキュリティ」 ・AIに関する原則「ガイドライン、規制」「情報倫理・情報セキュリティ」 ・AIの公平性、AIの信頼性、AIの説明可能性、AIの安全性「情報倫理・情報セキュリティ」 	
	3-3 <ul style="list-style-type: none"> ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「AIの活用」 	
	3-4 <ul style="list-style-type: none"> ・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)「AIの活用」 	
	3-5 <ul style="list-style-type: none"> ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・拡散など)「情報倫理・情報セキュリティ」「AIの活用」 ・実世界で進む生成AIの応用と革新(対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など)「AIの活用」 	
	3-10 <ul style="list-style-type: none"> ・AIの学習と推論、評価、再学習「AIの活用」 	
	(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用 企画・実施・評価」から構成される。	I <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「AIの活用」
		II <ul style="list-style-type: none"> ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「AIの活用」 ・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)「AIの活用」

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

リテラシーレベルの学修内容を発展させ、データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AIを活用し課題解決につなげる基礎能力

応用基礎レベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和6 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数合計	履修率
	うち女性				履修者数	修了者数												
経営情報学部	348	101	200	800	101	0	121	0									101	13%
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
合計	348	101	200	800	101	0	121	0	0	0	0	0	0	0	0	0	101	13%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	40	人
(非常勤)	31	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

6	人
---	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	上級副学長・経営情報学部長
(役職名)	高藤 清美

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	データサイエンス教育プログラム委員会
------	--------------------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	日本国際学園大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進規程
------	-----------------------------------

⑥ 体制の目的

日本国際学園大学(以下「本学」という。)にデータやAIを利活用する基礎的な素養の修得、課題解決のための基礎能力、専門分野への応用能力を身に付けるための数理・データサイエンス・AI教育プログラム(以下「本教育プログラム」という。)を設置し、数理・データサイエンス・AIの基礎的素養及び応用能力を持つ人材を育成すること。

⑦ 具体的な構成員

委員長 上級副学長・経営情報学部長 教授 高藤 清美
 委員(自己点検責任者) 国際センター長 教授 山島 一浩
 委員 ICT企画室長 准教授 パンタ ボーラ
 委員 仙台キャンパス長 教授 倉橋 節也
 委員 教務委員長 講師 野田 美波子
 委員 助教 丸山 雅貴
 委員 教授 谷本 茂明

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	13%
令和8年度予定	25%
令和9年度予定	35%
令和10年度予定	45%
令和11年度予定	55%

具体的な計画

令和6年度の本教育プログラム開設後、対象となる授業科目を積極的に履修するよう推奨した。令和7年度には、学年ごとのガイダンスや個別の履修指導によりプログラムの意義や目的を説明し、履修案内を強化している。

また、令和8年度以降は、本学入学者の全てが本教育プログラムを履修し、可能な限り多くの学生が本教育プログラムを修了するよう、学内でのプログラムの認知度を向上させるため、毎学期に実施するガイダンス、キャンパスアドバイザーや担当教員による個別の履修指導等を通じて啓発することとしている。あわせて、本教育プログラムの目的達成のため、本学データサイエンス教育プログラム委員会で検討を重ね、在籍学生が広く数理・データサイエンス・AIを理解し、知識を重ねられるようなプログラムの開発等を行い、より魅力あるプログラムとする。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本学は、1学部1学科制であり、希望する学生は全員が受講可能な科目構成としている。

修了要件となる科目のうち、「データ分析と統計1」、「データ分析と統計2」、「情報倫理・情報セキュリティ」は全学生対象の選択必修科目、「ビジネス数理(データサイエンス)」、「アルゴリズム」、「AIの活用」は専門科目の選択科目として位置づけられている。

どの科目も、現在は必修科目となっていないが、卒業要件科目のうちでも重要な位置づけを行い、ガイダンスにおいて履修するよう啓発、指導することとしている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

年度当初に各学年で実施しているオリエンテーション期間中に実施するガイダンス等で、本教育プログラムを周知するとともに、学生全員に本教育プログラムの目的や意義を理解できるよう啓発チラシを配布することで、プログラム履修の意義を説明する。

また、本学のキャンパスアドバイザー制度を活用した個別の履修相談やAI・情報系教員による本教育プログラムの周知のみでなく、全教員による本教育プログラム対象科目の履修を勧めるよう、教員へ協力を依頼する。

また、本教育プログラムの対象となっている授業科目のシラバスにも、受講を促す旨を記載し、本教育プログラムの対象科目への履修登録を推奨していく予定である。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本学では、クラスの担任を兼ねるキャンパスアドバイザーが、個々の学生についての履修相談や学生生活についての相談に応じ、きめ細かく個別指導を実施している。この個別指導において、全ての学生に対して積極的に履修を促す指導体制を構築している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本学の専任教員は、授業時間外にオフィスアワーを設定しており、その時間に学生から質問を受け付けることができるようにしている。また、授業においても、積極的に学生の疑問や質問に答えるようにしている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 データサイエンス教育プログラム委員会

(責任者名) 山島 一浩
 (役職名) 自己点検責任者(教授・国際センター長)

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本教育プログラムは、令和6年度に開設され、毎年100名程度の学生がプログラムの対象授業科目を履修している状況にある。</p> <p>学内の履修登録システムを通じて、本教育プログラムについての周知を図っているが、周知に課題が残ったため、オリエンテーションでの本教育プログラムの紹介・PRを実施し、在籍学生の履修率向上を図っている。</p> <p>令和6年度には、学内の履修登録システムを通じて、本教育プログラムについての周知を図ってきた。次年度以降は、オリエンテーションでの本教育プログラムの紹介・PRを実施し、在籍学生の履修率の更なる向上を図る。</p> <p>また、データサイエンス教育プログラム委員会で、定期的にプログラムの履修・修得状況を確認・分析する体制を整え、自己点検や改善に取り組み、学生の履修を支援していく。</p>
学修成果	<p>本教育プログラムは、リテラシーレベルの学修成果を踏まえつつ、2年次から3年次にかけて授業科目を履修し、単位を修得するよう設計されている。本教育プログラムの修了要件科目で扱う内容は、下記の通りである。</p> <p>「データ分析と統計1」では、抽出、視覚化、特徴量の計算、相関、回帰分析と予測、確率分布について扱い、身近な場面でデータ処理を行えるよう演習を実施している。</p> <p>「データ分析と統計2」では、実データの背後にある確率的規則性を推定し、データを適切に分類することができるようになるため、点推定、区間推定、最尤推定、仮説検定、主成分分析、クラスター分析といった手法を扱っている。</p> <p>「情報倫理・情報セキュリティ」では、急速に発展する情報化社会において、情報を適切に活用するためのスキルと知識を身につけるとともに、ネット社会における情報倫理と情報セキュリティを自ら形成していく能力を養っている。</p> <p>「ビジネス数理(データサイエンス)」では、Python言語を用い、数理・データサイエンス・AIを活用するための数学・統計学の土台となる基礎知識を修得できるように構成している。</p> <p>「アルゴリズム」では、アルゴリズムとデータ構造に関する基礎事項を扱い、代表的なアルゴリズムについてPythonを用いてプログラムを作成しさらに理解を深めるよう促している。</p> <p>「AIの活用」では、デジタルツインの時代における次世代AI技術について理解を深めるために必要となる、AIの基本的なアルゴリズム・要素技術について学ぶとともに、社会シミュレーションや画像認識・生成の演習を行い、AIの活用による社会課題の解決手法を体験できるようにしている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の理解度	<p>本教育プログラムに関する学生アンケートは実施していないため、本教育プログラムとしての学生の理解度については十分評価しえないが、毎学期実施している「授業アンケート」により確認を行った結果、「学生の知的好奇心を満たす、面白く分かりやすい授業である」、「授業の高い質と分かりやすさが担保されている」、「学習意欲と実践力を引き出す授業設計がされている」、「スキルレベルの多様性への対応している」等について高い評価となっており、十分に理解を深められているものと考えられる。</p> <p>令和7年度以降は、本教育プログラム独自の学生アンケートを実施し、学生の理解度向上につなげていきたい。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>修了認定をオリエンテーションで行い、その魅力が修了者から他の学生へ伝わるよう工夫する等により、多くの学生にとって数理・データサイエンス・AIを学ぶ動機を促す取組を今後実施していく。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>オリエンテーションでの履修の推奨や関連科目での周知を行い、本教育プログラムの履修者数および履修率の向上を目指している。履修者数向上に向けた計画として、魅力的なカリキュラムを提供し、履修意欲を高める。また、アクティブラーニングを導入し、学生が主体的に学ぶ参加型の授業を増やすことで、学習効果を高め、履修のモチベーションを維持する。さらに、きめ細やかな指導を通じて、学生一人ひとりの学習状況を把握し、履修をサポートすると共に、全学教育・キャリア教育センターが実施するキャリア支援と連携し、早期からのキャリア教育やインターシップを通じて、本教育プログラム履修の目的意識を高める。</p> <p>履修率向上に向けては、キャンパスアドバイザーによるきめ細かい履修指導を実施し、新入生のみではなく、在学生に対しても、適切な履修計画の立て方や科目の選択方法等を丁寧に指導し、授業外での学習相談や補習を実施して学生の理解度を高め、授業への参加を促している。さらに時間や場所にとらわれない学習機会を提供し、学生の学習継続を支援している。また、出席状況や成績が低迷している学生に対しては早期に相談や指導を行い、履修放棄を防ぐように取り組んでいる。</p> <p>また、社会においてAIやデータの重要性が増していることに鑑み、今後、必修化に向けた検討を進める。大学の魅力を積極的に発信し、入学希望者数を増やすことで、結果的に履修者数を増加させることを目指す。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本教育プログラム修了者の卒業は、早くても令和9年度となるため、進路・活躍状況、企業などの評価を現時点で得ることは困難である。本学では、修了認定者について適切に管理する体制を整備し、卒業後の本教育プログラム修了者の就職先や企業での活躍状況を照会・評価する計画である。</p> <p>本学卒業生の進路については、金融、商社、情報通信、不動産、教育、サービス、医療・介護、公務など、幅広い業種に就職している。これは、大学がAI・情報分野を含む複数の教育モデルを提供し、多様なキャリアパスを支援していることのと表れと考えられる。地域貢献への意識が高い学生もおり、つくば市役所等の地元自治体や地域の企業への就職が見られる。また、大学院へ進学し、より専門的な知識や研究を深める意欲を持つ学生もいる。キャリア支援教育にも積極的に取り組んでおり、企業が求める人材育成につないで、企業から評価されるようさらなる取り組みを進めている。また、本学では国際性を重視しており、AI・ビッグデータを活用したグローバルな人材育成を目指し、国際的な視野を持つ人材を求める企業から評価されるよう取り組みを進めている。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本教育プログラムは令和6年度に開設されたため、産業界からの評価を得るための修了者を輩出できていない。そのためデータサイエンス教育プログラム委員会を中心に、データサイエンスやAI、情報セキュリティ等のリテラシー教育について、本教育プログラムに期待することや実務で必要な知識・スキルに関する情報の収集を継続的に実施することとしている。</p> <p>産業界が重視する要素と大学の取組として、実践的なスキル・知識の習得が挙げられるが、本学では、「実学教育」を重視し、ビジネス、情報、デザインなど、社会のニーズに合わせた教育モデルを提供し、産業界の期待に応えることができるものと考えている。これらを大学の取り組みとして、アクティブラーニングや少人数教育を通じて、学生の主体的な学びや思考力を育成する。</p> <p>今後、企業との連携の強化、卒業生の追跡調査、産業界からのフィードバックの収集を続け、産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見を反映させていく。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>「全学的なりテラシー教育としての導入」、「専門分野との接続による動機付け」、「体験型学習と実践的な応用の重視」、「文理融合的なアプローチ」などを重視し、本学の設定する履修モデルでの専門分野と結びつくことで、学生は自身の興味のある領域において数理・データサイエンス・AIがどのように役立つのかを具体的に理解し、主体的に学ぶ「楽しさ」を見出す可能性がある。異なる学問分野との接点を示すことで、数理・データサイエンス・AIの幅広い可能性の理解を促し、「学ぶことの意義」を深めるとともに、新たな知的好奇心を刺激し、「学ぶ楽しさ」につなげていく計画である。</p> <p>また、一部の科目では、外部講師招聘の制度を活用し、AI分野の専門家等による講義を取り入れることにより、多角的な視点から数理・データサイエンス・AIがどのように社会において活用されているか、理解を促していく。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>「分かりやすい」授業に向けた取り組みとして、一方向的な講義だけでなく、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ケーススタディ、反転授業など、学生が主体的に参加する形式の授業を積極的に導入し、理解度を高め、記憶への定着を促している。学生が自ら考え、発言し、議論する過程で疑問点が明確になり、教員や他の学生からのフィードバックを通じて理解を深めることができるよう工夫している。さらに、アクティブラーニングの推進のため、スチューデント・アシスタントを一部の科目において活用し、学生の学修状況を適切に把握しながら授業を進めている。</p>

授業科目名 (つくは)データ分析と統計1 (22124001)
担当教員名 あんどうまさるひろ アンドラウスセルヒオ
学部・学科 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
学期 前期
単位数 2単位
授業形態 講義・演習
履修年次(履修開始可能年次) 2年
曜日時限 金曜4時限

授業の到達目標

到達目標：
SNS等により社会には利用可能な大量のデータが出現している。これらを利用するデータサイエンスを構成する要素分野である「情報学」、「統計学」及び「数理学」のうち、情報学及び統計学を用いてデータの処理と特徴抽出を行うことで基礎的なデータ活用を行うことができる。

履修目標：

- ・必要なデータを抽出することができる。
- ・人間が理解しやすいようにデータを視覚化できる。
- ・データの特徴を抽出できる。
- ・複数種データ間の質的・量的関連性を測ることができる。
- ・確率的に変動する不確実なデータの生成ができる。

事前・事後学習

Google Classroom を通じて配布する講義ノートや演習問題を事前及び事後学習することで、授業内容を深く理解して欲しい。(目安：5時間)

授業概要

データ処理に関する次の事項を教授する：抽出、視覚化、特徴量の計算、相関、回帰分析と予測、確率分布。授業以外の身近な場面でデータ処理を行えるように、授業ではエクセルによる演習を行う。

履修条件

なし

人材育成のためのキーワード

自己表現力/自己分析力,問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,情報スキル

アクティブラーニングの要素

課題解決型,実習

実務家教員による講義の有無

無

対象資格**授業ナンバリング**

Se2202

科目等履修生・授業公開受入可否

受入不可

授業計画

回数	授業計画
1回	授業計画とシラバスの内容説明 ○自己学習の目標「授業の目的を理解し、エクセルの操作法を復習する」

回数	授業計画
2回	表計算の操作法 ○自己学習の目標「エクセルにおけるデータのコピー、保存、移動、挿入、計算式、関数計算、書式設定等ができる」
3回	データの抽出・集計 ○自己学習の目標「データの並べ替え、条件による抽出、自動集計ができる」
4回	データの視覚化（1） ○自己学習の目標「棒グラフ、折れ線グラフ、レーダーチャート、円グラフが描ける」
5回	データの視覚化（2） ○自己学習の目標「ドーナツグラフ、散布図、ヒストグラムが描ける」
6回	データの特徴量の抽出（1） ○自己学習の目標「合計、比率、分布、平均、中央値、最頻値等を抽出できる」
7回	データの特徴量の抽出（2） ○自己学習の目標「基本統計量を理解し、分散や標準偏差が計算できる。分析ツールを活用でき、四分位数や尖度、歪度を抽出できる」
8回	量的データの関連性の抽出 ○自己学習の目標「複数種データ間の散布図を描き、相関係数や類似度の意味を理解して計算できる」
9回	質的データの関連性の抽出 ○自己学習の目標「クロス表を作成でき、AICやカイ2乗値を計算できる」
10回	回帰分析による予測（1） ○自己学習の目標「回帰分析を理解し、散布図と回帰直線を描くことができる」
11回	回帰分析による予測（2） ○自己学習の目標「最小二乗法を使うことができる。重相関係数や決定係数を計算できる。分析ツールによる重回帰分析を行うことができる」
12回	確率（1） ○自己学習の目標「母集団、標本、確率分布、離散・連続確率変数について理解できる」
13回	確率（2） ○自己学習の目標「離散・連続確率変数を理解し、代表的な確率分布（一様分布、二項分布、正規分布）に従う乱数を発生でき、期待値、分散、標準偏差を一般的に計算できる」

評価方法

平常点（平素の課題提出等）80点、定期試験 20点

フィードバック方法

平素の提出課題に関する模範解答や学生回答へのコメントを適宜示す。

テキスト

Google Classroom や授業中において、適宜参考資料を配布する。

参考文献

「Excelで学ぶ統計・データ解析入門」（中村永友・山田智哉・金明哲 共著、丸善出版）

備考

授業科目名 (つくば)データ分析と統計2 (22124501)
担当教員名 あんどうすさるひお アンドラウスセルヒオ
学部・学科 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
学期 後期
単位数 2単位
授業形態 講義・演習
履修年次(履修開始可能年次) 2年
曜日時限 火曜4時限

授業の到達目標

到達目標：
SNS等により社会には利用可能な大量のデータが出現している。これらを利用するデータサイエンスを構成する要素分野である「情報学」、「統計学」及び「数理学」のうち、情報学及び統計学を用いて不確実性のあるデータの背後にある規則性を推理し、その確信度とともに将来を予測することができる。

履修目標：
SNS等により社会には利用可能な大量のデータが出現している。これらを利用するデータサイエンスを構成する要素分野である「情報学」、「統計学」及び「数理学」のうち、情報学及び統計学を用いてデータを記述するパラメータを推定、データを用いて仮説を検定、及びクラスターリング手法でデータを分類できる。

事前・事後学習

Google Classroom を通じて配布する講義ノートや演習問題を事前及び事後学習することで、授業内容を深く理解して欲しい。
事前に2時間、事後に3時間程度の学習時間を推奨する。

授業概要

実データの背後にある確率的規則性を推定し、データを適切に分類するための次の事項を学ぶ：点推定、区間推定、最尤推定、仮説検定、主成分分析、クラスター分析等。授業以外の身近な場面でデータ処理を行えるように、授業ではエクセルとRによる演習を行う。

履修条件

「データ分析と統計1」を受講していることが望ましい。

人材育成のためのキーワード

自己表現力/自己分析力,問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,情報スキル

アクティブラーニングの要素

課題解決型,実習

実務家教員による講義の有無

無

対象資格**授業ナンバリング**

Se2303

科目等履修生・授業公開受入可否

受入不可

授業計画

回数	授業計画
1回	授業計画とシラバスの内容説明 ○自己学習の目標「授業の目的を理解し、エクセルの操作法を復習する」

回数	授業計画
2回	標本分布と統計量 ○自己学習の目標「標本分布と統計量について理解し、正規分布、カイ二乗分布、t分布、F分布について説明できる」
3回	推定（1） ○自己学習の目標「点推定と母平均、母分散の不偏推定量を理解し、最尤推定について説明できる」
4回	推定（2） ○自己学習の目標「区間推定の考え方を理解し、母平均、母比率の区間推定について説明できる」
5回	検定（1） ○自己学習の目標「仮説検定について理解し、帰無仮説、棄却域、有意水準について説明できる」
6回	検定（2） ○自己学習の目標「母平均、母比率、母分散、母平均の差について説明できる」
7回	検定（3） ○自己学習の目標「カイ二乗検定について説明できる」
8回	分散分析 ○自己学習の目標「分散分析法について理解し、F検定を行うことができる」
9回	Rによるデータ解析（1） ○自己学習の目標「Rにより、データの入出力、結合、演算を行うことができ、データを各種グラフに視覚化できる」
10回	Rによるデータ解析（2） ○自己学習の目標「主成分分析について説明できる」
11回	Rによるデータ解析（3） ○自己学習の目標「因子分析について説明できる」
12回	Rによるデータ解析（4） ○自己学習の目標「クラスター分析について説明できる」
13回	Rによるデータ解析（5） ○自己学習の目標「判別分析について説明できる」

評価方法

平常点（平素の課題提出等）80点、定期試験 20点

フィードバック方法

平素の提出課題に関する模範解答や学生回答へのコメントを適宜示す。また、Mentimeterを用いたインタラクティブプレゼンテーションで講義中の学習過程を確認する機会を与える。また、Mentimeterを用いたインタラクティブプレゼンテーションで講義中の学習過程を確認する機会を与える。

テキスト

Google Classroom や授業中において、適宜参考資料を配布する。

参考文献

「基礎から学ぶ統計学」（中原治 著、羊土社）
「みんなのR」（Jared P. Lander 著、マイナビ出版）
「Excelで学ぶ統計・データ解析入門」（中村永友・山田智哉・金明哲 共著、丸善出版）
「Rによるデータサイエンス」（金明哲 著、森北出版）

備考

授業科目名 (つくば)情報倫理・情報セキュリティ (24300901)
担当教員名 たにもとしげあき 谷本茂明
学部・学科 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
学期 前期
単位数 2単位
授業形態
履修年次(履修開始可能年次) 2年
曜日時限 金曜2時限

授業の到達目標

【到達目標】 情報社会において、自らの情報リテラシーをもとに、正しい情報を取捨選択でき、被害者にも加害者にもなりうる意識をもって、正しい情報活用ができ、また説明することができる
【履修目標】 情報倫理を体系的に理解し、適切な活用ができる意識・スキル・能力を身につけていく
1：情報を活用する利便性や情報の不正な利用による問題についておおむね説明することができ、また自らが実践できる。
2：著作物の定義や著作権者の権利に関する知識を記述することができ、論文や著作物において情報リテラシーを遵守した表現をすることができる。
3：ビッグデータの活用による個人情報やプライバシーの不正利用についておおむね説明することができ、その利便性や危険性を理解することができる。
4：情報倫理を理解し、自らが被害者にも加害者にもなる意識を持って、ネット社会を生き抜く力を身につけることができる。

事前・事後学習

【事前学習】 事前に示されたテーマや学習範囲を理解し、基礎的な知識を身につけておくことが望ましい。(2時間程度)
・今までに学んだ教科書やテキスト、参考文献などに目を通して、概要を理解しておく
【事後学習】 講義を通じて得られた知識などを用いて、課題解決に結びつような自分なりの考えを示す。(3時間程度)
・講義中で共有した知識や他者の意見を自分なりにまとめる
・自分なりの考えを元に、与えられた課題に対しての解決策を示す
・自分及び他者の考え方を共有し、レポートやプレゼンテーションなどで示せるようにする

授業概要

・近年、急速にビッグデータを収集し、AI(人工知能)を活用するシステムが増えてきている。特に、デジタルネイティブと言われる世代においては、情報技術の進化とともにスキルや知識を習得し、今まで以上に有益に活用することができる。しかし、一方では、急速な情報技術発展に伴い情報漏洩やサイバー犯罪などは後を絶たない。そこで本講義では、急速に発展する情報化社会におけるスキルや知識を理解し、ネット社会における情報倫理・情報セキュリティを自ら形成していく能力を養っていく。
・情報化社会においては、ネット上のモラルやルールを理解し、相互に安心して暮らせる社会を築いていく考え方を身に付けることが不可欠である。特に若年層では、情報倫理が未成熟なため、ふとした利用で、加害者にも被害者にもなり得るのが実情でもある。「ネットにおけるコミュニケーション」・「情報技術とセキュリティ」・「インターネットと犯罪」・「個人情報と知的財産」・「SNSと情報モラル」などインターネット社会を生きるための情報倫理に関連する諸問題を事例をもとに取り上げて、自己防衛や社会防衛の意識を持てるようにしていく。

履修条件

1：現在までに、高校課程の情報または現代社会・地理のいずれかの授業を履修した経験がある者が望ましい。
2：情報の授業で得た知識の有無にかかわらず、本講義への興味や関心を持って臨む者が望ましい。
3：情報倫理の学びを通じて、現代の社会や将来につながる課題意識を持つ者が望ましい。
4：一般教養として、情報倫理を学ぶことの意義を持ち、自分自身のアドバンテージにできる者が望ましい。
5：本講義を通じて、情報リテラシーを高め、自らが率先して情報倫理を遵守する意欲を持つ者が望ましい。

人材育成のためのキーワード

コミュニケーション能力/協調性,自己表現力/自己分析力,問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,言語運用力,情報スキル,デザイン力

アクティブラーニングの要素

課題解決型,ディスカッション,グループワーク,プレゼンテーション,実習

実務家教員による講義の有無

有

対象資格**授業ナンバリング**

Se2213

科目等履修生・授業公開受入可否

受入可

授業計画

回数	授業計画
1回	オリエンテーション・ガイダンス ～ 情報倫理・情報リテラシーとは？～
2回	情報通信社会とインターネット ～ 急速に進化する技術力とスキル～
3回	ネット時代のコミュニケーション能力 ～ ネット上での加害行為・被害行為～
4回	現代のメディアの変遷 ～ 急速に拡大するメディアとメディアリテラシーのあり方～
5回	情報技術とセキュリティの進化 ～ 高度化・複雑化する情報技術とセキュリティー～
6回	インターネット上における犯罪行為 ～ 過去に行われたネット上の犯罪行為とこれから起こりうる事象～
7回	中間試験：第1回～6回までの講義内容を試験する 個人情報とプライバシー的の所有権とコンテンツ：～ 私たちの個人情報はいかにして侵害されているのか？～
8回	情報科学技術と生命倫理 ～ 医療・生命に関する技術の発展と生命倫理との整合性～
9回	ビッグデータとAIの倫理 ～ 次世代に求められるビッグデータの活用～
10回	デジタルバイドが引き起こす、もう一つの格差社会 ～ 情報弱者に起こりうる近未来と防衛策～
11回	ソーシャルネットワークサービス（SNS）における被害の実例 ～ 今まで気がつかなかった身近な犯罪と加害者及び被害者の可能性～
12回	ネット上における金融取引や経済活動に関する可能性 ～ ネット売買・仮想通貨・NFTは、経済活動を変えるのか？～
13回	期末試験：第7回～12回までの講義内容を試験する 次世代に起こるネット世界と情報倫理：～ シングularityを超えた後の情報倫理～

評価方法

- ・ 授業参加時の活動（平常点）20%
- ・ 中間試験（学業点）40%
- ・ 期末試験（学業点）40%

フィードバック方法

- ・ 授業後に示される課題に対する自分なりの考えに対してのアドバイス
- ・ 授業中に行われるワークショップやディスカッションに対する総合的なアドバイス
- ・ 学期末試験に対するコメント

テキスト

【改訂3版】情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー 著者: 高橋 慈子、原田 隆史、佐藤 翔、岡部 晋典、出版社: 技術評論社 ISBN-13: 978-4297134150

参考文献

- ・ 講義資料を配付
- ・ 情報教育学研究会 『インターネット社会を生きるための情報倫理（改訂版）』実務出版, 2020

備考

- ・ 講義だけでなく、ワークショップやディスカッションなどの活動が多くあります。主体的に参加してください。
- ・ 知識の集約だけでなく、知識の活用をメインにします。考える意識を持って参加してください。
- ・ 授業計画は、履修者数や進度によって変わる可能性があります。

授業科目名 (つくば)ビジネス数理 (データサイエンス) (35323201)
担当教員名 ほんたほーら バンタポーラ
学部・学科 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
学期 後期
単位数 2単位
授業形態 講義・演習
履修年次 (履修開始可能年次) 3年
曜日時限 火曜2時限

授業の到達目標

到達目標：
・数理・データサイエンス・AIを学ぶ上で基盤となる学修項目 (数学・統計学) について説明することができる。
履修目標：
・数理・データサイエンス・AIを学ぶ上で基盤となる学修項目 (数学・統計学) を理解する。

事前・事後学習

教科書の演習及び授業で紹介した内容 (Webサイト等を含む)・課題を事前及び事後学習することで、授業内容を深く理解して欲しい。(目安：5時間)

授業概要

データやAIを活用するための数学・統計学の土台となる基礎知識を学ぶ。
また、演習はPythonを用いて行う。

履修条件

必須ではないが、Python言語を履修済みであることが望ましい。
上記履修していない者はYoutube等でPython言語の基礎を習得すること。

人材育成のためのキーワード

コミュニケーション能力/協調性,問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,情報スキル

アクティブラーニングの要素

課題解決型,ディスカッション,グループワーク,プレゼンテーション

実務家教員による講義の有無

無

対象資格**授業ナンバリング**

Sf2221

科目等履修生・授業公開受入可否

受入不可

授業計画

回数	授業計画
1回	授業目的・計画の説明 イントロダクション、シラバス確認、Pythonの準備
2回	順列, 組み合わせ 順列, 組み合わせ、演習

回数	授業計画
3回	集合, ベン図 集合, ベン図、集合の演算、演習
4回	確率 確率の意味、条件付き確率確率、演習
5回	代表値 平均値、中央値、最頻値、演習
6回	分散, 標準偏差 分散、標準偏差、演習
7回	相関 共分散、相関係数、相関と因果関係、演習
8回	ベクトルの演算 ベクトルと行列、ベクトルの和とスカラー倍、ベクトルの内積、演習
9回	行列の演算 行列の和とスカラー倍、行列の積、演習
10回	多項式関数 多項式関数とは、次関数のグラフ、次関数のグラフ、演習
11回	・指数関数 指数の意味、指数関数のグラフ、演習 ・対数関数 対数の意味、対数関数のグラフ、Excelによる演習
12回	・微分係数 関数の極限、関数の傾きと微分の関係、演習 ・1変数関数の微分法 導関数、関数の増減とグラフ、演習
13回	1変数関数の積分法 (必要に応じて復習又は学習) 不定積分、積分と面積の関係、定積分、演習

評価方法

授業への参加状況および出席課題 (30%)、中間テスト(1回) (20%)、期末試験または課題レポートand/or プレゼンテーション (50%)

フィードバック方法

平素の提出課題に関する模範解答や学生回答へのコメントを適宜示す。

テキスト

なし

参考文献

数理・データサイエンス・AIのための数学基礎
岡田 朋子 (2024)

必要に応じてその他も授業内で紹介する

備考

- ・ 授業計画は、履修者数や進度によって変更になる可能性がある。
- ・ 授業の最後に、出席課題を提出してもらう場合がある。
- ・ ディスカッションなどの活動にも主体的に参加してください。
- ・ 知識の集約だけでなく、知識の活用をメインにします。考える意識を持って参加してください。

私語のポリシー

授業中の私語は周りに迷惑になるので注意したり、退出させたりする場合があります。

スマホのポリシー

スマホは必ず電源OFFもしくはマナーモードに設定して置く。
学習の目的に利用する場合、周りに迷惑にならない範囲で利用可。
ゲームなど学習以外の目的に利用した場合、注意したり、退出させたりする場合があります。

不正行為の取扱い

試験や課題提出に不正行為があった場合、大学のポリシーに従って厳格に対応する。

授業科目名 (つくは)アルゴリズム (31331501)
担当教員名 <small>たにもとしげあき</small> 谷本茂明
学部・学科 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
学期 後期
単位数 2単位
授業形態
履修年次(履修開始可能年次) 2年
曜日時限 木曜2時限

授業の到達目標

到達目標：

- ・ 整列や探索などの基本的なアルゴリズムについて理解し、その概要を説明できる。
- ・ 典型的なアルゴリズムについて理解し、プログラミングできる。

履修目標：

- ・ 各アルゴリズムの論理的な意味、数学的な意味を理解し、その処理手順を説明できる。
- ・ 与えられた課題に対して適切なデータ構造やアルゴリズムを自身で設計し、プログラミング化できる。

事前・事後学習

事前学習として、次の授業の内容を予習する。事後学習として、講義内容を整理して復習するとともに、授業の課題に取り組む。事前事後学習は、合わせて5時間程度必要である。また、プログラミング言語Pythonを習得することが望ましい。

授業概要

情報処理技術者に必須なアルゴリズムとデータ構造に関する基礎事項を学び、代表的なアルゴリズムについて実際にプログラミング言語Pythonを用いてプログラムを作成しさらに理解を深める。

履修条件

プログラミング、システム開発、各種アプリケーションソフトウェア開発に興味があり、積極的に取り組めること。

人材育成のためのキーワード

問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,情報スキル

アクティブラーニングの要素

課題解決型,実習

実務家教員による講義の有無

有

対象資格

高等学校教諭一種免許状(情報),ウェブデザイン実務士

※資格対象科目は入学年度で異なるため、便覧で資格カリキュラムを必ず確認して下さい。

授業ナンバリング

SJ2312

科目等履修生・授業公開受入可否

受入可

授業計画

回数	授業計画
1回	アルゴリズムの基本： アルゴリズムとは何かを解説する。また授業中に使用するプログラミング言語 (Python) の概略を説明し、簡単な例題を出題する。
2回	簡単なアルゴリズム： いろいろなアルゴリズムの中で組み込まれて利用される基本的アルゴリズム (合計値、平均値、最大値、最小値、データの交換) の解説と実習をする。
3回	探索1 (線形探索法)： 探索アルゴリズムとは何かを説明し、単純なアルゴリズムのひとつである線形探索法 (リニアサーチ) について解説する。また実習を通して動作確認をする。
4回	探索2 (二分探索法)： 高速に探索できる二分探索法 (バイナリサーチ) を解説する。線形探索法との動作の違いを例題を通して実習する。
5回	小テスト1回目：第1週から4週までの講義内容の振り返りとして、小テストを実施する。
6回	整列1 (単順交換法)： 整列アルゴリズムとは何かを説明し、最も基本的なアルゴリズムのひとつである単順交換法 (バブルソート) について解説する。また例題を通して実習する。
7回	整列2 (単純選択法)： 前回同様に、最も基本的なアルゴリズムである単純選択法 (選択ソート) について解説と実習をする。
8回	整列3 (単純挿入法)： 整列されている部分が多いと、高速に整列できる単純挿入法 (挿入ソート) について解説する。また例題を通して実習する。
9回	整列4 (クイックソート)： 最も速く整列できるクイックソートについて解説する。再帰という概念を使っていて、難解な考え方なので時間をかけて説明する。
10回	小テスト2回目：第6週から9週までの講義内容の振り返りとして、小テストを実施する。
11回	迷路自動生成アルゴリズム (棒倒し法、穴掘り法)：ランダムに棒を倒して迷路を作る棒倒し法によるアルゴリズム、ランダムに2歩ずつ穴を掘って迷路を作成する穴掘り法を解説し、実習を通して理解する。
12回	迷路探索アルゴリズム (右手法、幅優先探索法)：迷路を解く最も簡単なアルゴリズム右手法を最初に解説、実習する。次に、無駄なルートを進まない最短路を見つけることができる幅優先探索法について解説、実習する。
13回	レポート課題：迷路生成、探索に関するレポート課題を実施する。

評価方法

平常点 (30%)、2回の小テスト (1回目 (基本アルゴリズム、探索アルゴリズム：30%)、2回目 (選択アルゴリズム：30%)) とレポート課題 (迷路作成・探索アルゴリズム：10%) で評価する。

フィードバック方法

小テストに対し回答例などを解説するなど、適宜、フィードバックを行う。

テキスト

アルゴリズムとプログラミングの図鑑 (マイナビ出版) 森巧尚 [著] ISBN978-4-8399-7709-2

参考文献

アルゴリズムとデータ構造 (講談社) 大槻 兼資 [著] ISBN978-4-06-512844-2
問題解決のための「アルゴリズム×数学」が基礎からしっかり身につく本 (技術評論社) 米田 優
峻 [著] ISBN978-4-297-12521-9
新・明解Python入門 (SBクリエイティブ) 柴田 望洋 [著] ISBN978-4-8156-0152-2

備考

授業では、プログラミングや数学について基礎から丁寧に解説する。また授業内容を習得できるように、実習に十分な時間を充てる。

授業科目名 (つくば)A I の活用 (38321601)
担当教員名 <small>専任非常勤講師</small> 丸山雅貴
学部・学科 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
学期 後期
単位数 2 単位
授業形態
履修年次 (履修開始可能年次) 2年
曜日時限 火曜4時限

授業の到達目標**到達目標**

- ・ A I 技術の体系を大まかに理解し、社会課題とのつながりを説明できる。
- ・ A I を取り巻く状況の変化を踏まえ、自らの視点で今後の展望を述べることができる。

履修目標

- ・ A I 技術を自ら活用することにより、社会課題の解決するための方策を提案できる。
- ・ A I の最新事情や国等の A I 戦略の動向を十分に理解し、多様な観点から今後の展望を述べるができる。

事前・事後学習

テキストの関係する箇所を事前に通読し、理解を深めておくことが望ましい。
また、A I の最新事情を理解するため、適宜参考となる文献（ニュース記事等）を指示するので、その内容を読み、ショートレポートを提出することが求められる。
事前・事後学習を合わせて、5時間程度を要すると想定される。

授業概要

サイバー・フィジカル空間において、人間と協力して共に進化する A I に関する技術が発展しており、Society 5.0 を実現するための重要な要素となっている。
この授業では、デジタルツインの時代における次世代 A I 技術について理解を深めるために必要となる、A I の基本的なアルゴリズム・要素技術について学ぶ。
さらに、社会シミュレーションや画像認識・生成の演習を行い、A I の活用による社会課題の解決手法を体験する。
なお、A I 技術は日々進化を遂げていることから、最新の事情や国等の A I 戦略の動向を適宜紹介しながら授業を行う。

履修条件

A I を活用したプロジェクト学習を実施するため、積極的に授業へ参加することが求められる。

人材育成のためのキーワード

コミュニケーション能力/協調性,自己表現力/自己分析力,問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,ローカル・グローバルセンス,言語運用力,情報スキル,マネジメントセンス,デザイン力

アクティブラーニングの要素

課題解決型,ディスカッション,グループワーク,プレゼンテーション,実習

実務家教員による講義の有無

有

対象資格**授業ナンバリング**

SJ2206

科目等履修生・授業公開受入可否

受入不可

授業計画

回数	授業計画
1回	オリエンテーション 授業の進め方等
2回	AI技術の歴史と概要 エキスパートシステムの限界
3回	探索による問題解決 戦略的な探索
4回	知識表現と推論 論理を用いた思考
5回	機械学習 深層学習の発展
6回	データマイニング データからの知識発見
7回	知識モデリングと知識流通 知識の効果的な共有
8回	生成AI 人間の創造性の拡張
9回	デジタルツイン 人と共進化するAI技術
10回	ビッグデータ時代のAI 次世代AI技術を実現するコンピューティング
11回	プロジェクト学習① 社会シミュレーション
12回	プロジェクト学習② 画像認識・生成
13回	まとめ 学習内容の総括・応用的な内容

評価方法

授業への参加状況 50%、ショートレポート 40%、最終レポート 10%

フィードバック方法

ショートレポートの内容に対して、適宜フィードバックを行う。

テキスト

必要に応じて、適宜指示する。

参考文献

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムが作成している「応用基礎レベルモデルカリキュラム対応教材」を参考文献として活用する。
http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/e-learning_ouyoukiso.html

備考

- ・授業の順序は、状況に応じて変更する場合がある。
- ・Google Classroomを使用し、ショートレポートや最終レポート等の提出を求める。
- ・提出された授業内の課題、ショートレポート等の内容をクラス内で共有し、フィードバック・相互評価を行うことがある。

2025 年度

履修・学生生活
ガイドブック



日本国際学園大学
JAPAN INTERNATIONAL UNIVERSITY

再履修 試験で不合格（成績表記が「F」又は「失格」）になった授業科目は、次年度以降に開講する同じ授業科目を再度、履修（再履修）できます。

2. 授業科目

授業科目の開講時期、修得できる単位数、必修・選択の別、科目区分等については、授業科目表、授業時間割に記載されています。

科目区分概要

本学では、授業科目を「総合科目」、「外国語科目」、「日本語科目」、「基礎科目」、「モデル入門科目」、「ビジネススキル科目」、「専門科目」、「専門応用科目」、「キャリア支援科目」及び「海外留学関連科目」に区分しています。

《総合科目》

変化の激しい現代社会において、的確に物事を判断できるように、今まで蓄積されてきた思想や学問を基に総合的に基礎を学ぶ科目です。

《外国語科目》

国際化の進んだ現代社会の中で活躍するために必要となる語学力を養成する科目です。

現代社会では、どのような分野でも語学力は必要とされ、国際的な場面での活躍を目指す人はもちろん、国内のビジネスの世界で活躍を目指す人、情報やデザインの世界での活躍を目指す人にとっても重要な科目です。また、大学院進学を目指す人には必須です。

将来の進路、資格取得等を考慮し、計画的に、意欲的に履修してください。

《日本語科目》

日本語を母語としない留学生向けに、日本語でのコミュニケーションが問題なく行え、より実用的でアカデミックな日本語が学べる科目です。

日本語能力試験であるJPTL・N2やJPTへの対応するための演習科目も学べます。

《基礎科目》

必ず身につけてほしい、情報活用能力、コンピュータ科学の基礎、情報スキル、日本語リテラシーなど、現代社会において社会人になるための必須の能力であると考えられる情報スキル、文書作成・表現能力を身に付ける科目です。

《モデル入門科目》

履修モデル選択のための導入科目です。

それぞれの履修モデルの入門科目が開講されますので、各自が所属を希望する履修モデル対応入門科目を履修してください。

《ビジネススキル科目》

社会人として就業に際して必要な幅広い知識、技能の基本を習得するための科目です。

さまざまな科目が用意されているので、各自が必要と考える知識、技能を習得できるように履修してください。

《専門科目》

履修モデルで学ぶ専門分野に関する基本的な知識、技能を習得するための科目です。

各自の選択する履修モデルの専門科目の中から履修モデルのカリキュラムツリーや授業科目表を参考にして履修してください。

なお、選択した履修モデル以外の専門科目を履修することもできます。

《専門応用科目》

3年次に「専門演習ゼミ1」、4年次に「専門演習ゼミ2」を必ず履修します。

また、選択科目として「卒業研究」があります。

■ 専門演習ゼミ

「専門演習ゼミ1」「専門演習ゼミ2」は、履修モデルで学べる専門分野に関する専門性の高い演習科目です。担当教員により内容は異なりますが、問題解決型やグループワーク形式の演習が中心の授業になります。

なお、留学生在が「専門演習ゼミ2」の単位を取得するためには、日本語能力試験（JLPT）N2以上に合格していることが必要要件となります。

■ 卒業研究

「卒業研究」は4年次の選択科目です。1年間を通して専門的な指導を受け、各分野の研究に取り組みます。各担当教員の専門分野に関連した内容の研究を実施することになります。

「卒業研究」は大学で学んだ学問の総括として、4年次の1年間を通じて論文作成や作品制作などを行う高度な演習科目です。大学院進学希望者にとっては、その成否を左右する重要な条件にもなります。

履修条件や履修・提出についての手続きについては、履修ガイダンスで説明があります。

▶ 履修条件

3年次夏学期終了時点で累計GPAが2.50以上で「専門演習ゼミ2」及び「卒業研究」の担当教員が許可した学生のみが履修できます。

外国人留学生在は、上記の条件に加えて「日本語能力試験〔JLPT〕等のN2レベル以上に合格している」ことが必要です。

▶ 履修の流れ

〈4年次〉4月 : オリエンテーション期間に履修ガイダンス

4月～5月 : 研究テーマの決定

12月～1月 : 研究タイトルの決定

論文・報告書・制作物の提出

1月～2月 : 卒業研究の審査および研究発表会

これらの手続きに関する書類および論文・報告書等の提出は期限厳守です。提出期限を過ぎたものは受理されません。

《キャリア支援科目》

就職活動を円滑に進めるため、自分のキャリアについて考察し、就職活動に必要なスキルを身に付けるためや実践的な業界研究の仕方について学びます。

《海外留学関連科目》

海外留学のために必要な事前準備の科目と事後の成果を確認する科目を含めてより効果的な海外留学を実現するための科目です。

《自由科目》

自由科目は、それぞれの科目区分において定められている卒業に必要な単位数を超えて修得した授業科目の単位を充てることができます。

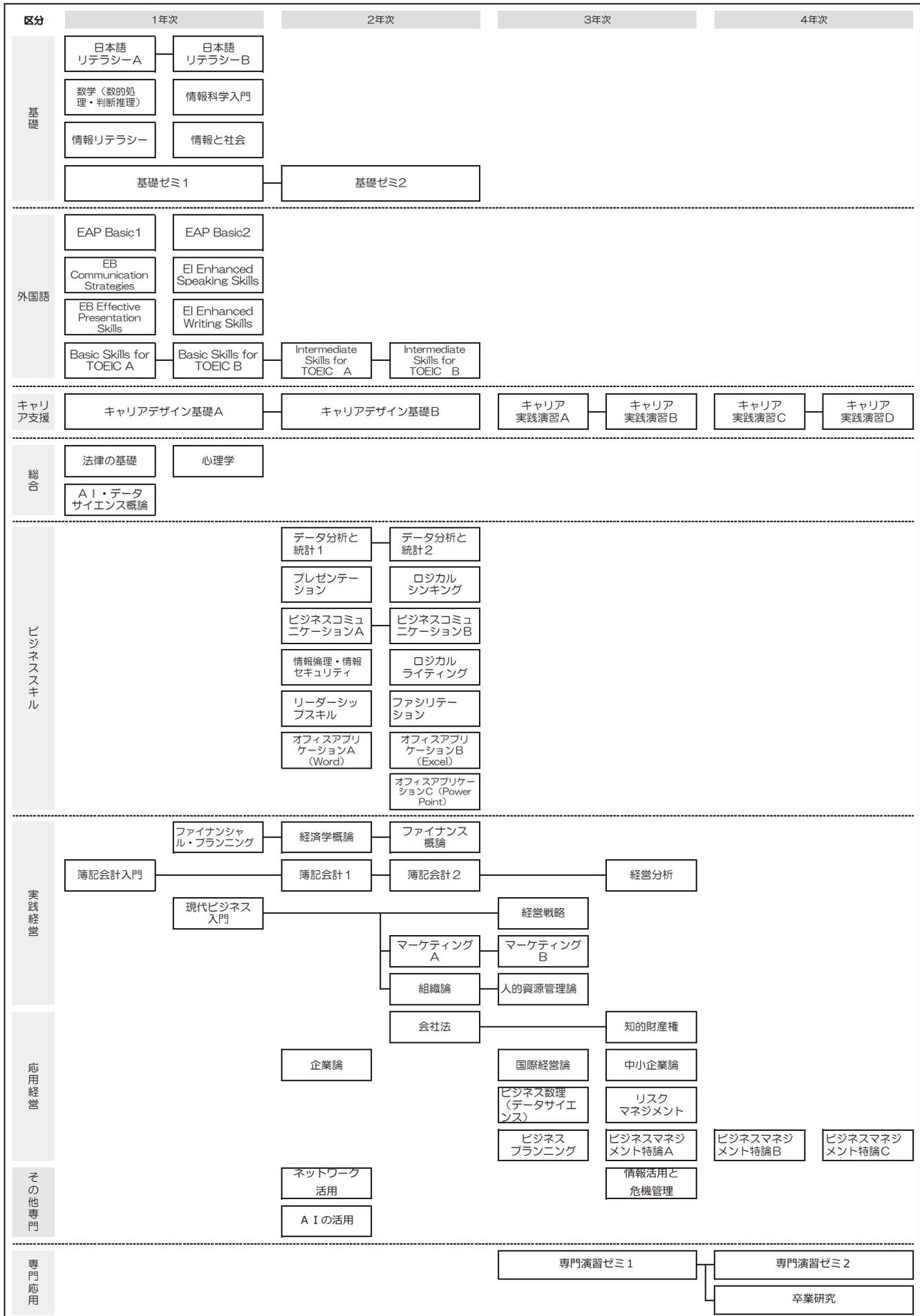
また、国際教養モデル以外で「海外留学関連科目」の単位を修得した場合は、自由科目の単位となります。

3. 履修モデル

本学では、学生が希望に応じて、体系的に基礎的な総合科目から高度な専門科目までを的確に履修できるように「現代ビジネス」、「日本文化・ビジネス（外国人学生・留学生対象）」、「国際教養」、「英語コミュニケーション」、「国際エアライン」、「国際ホテル」、「AI・情報」、「コンテンツデザイン」及び「公務員」の履修モデルを設定しています。

履修モデルでは、カリキュラムツリーを提示することにより、学生がその履修モデルの特徴を理解しやすく説明しています。

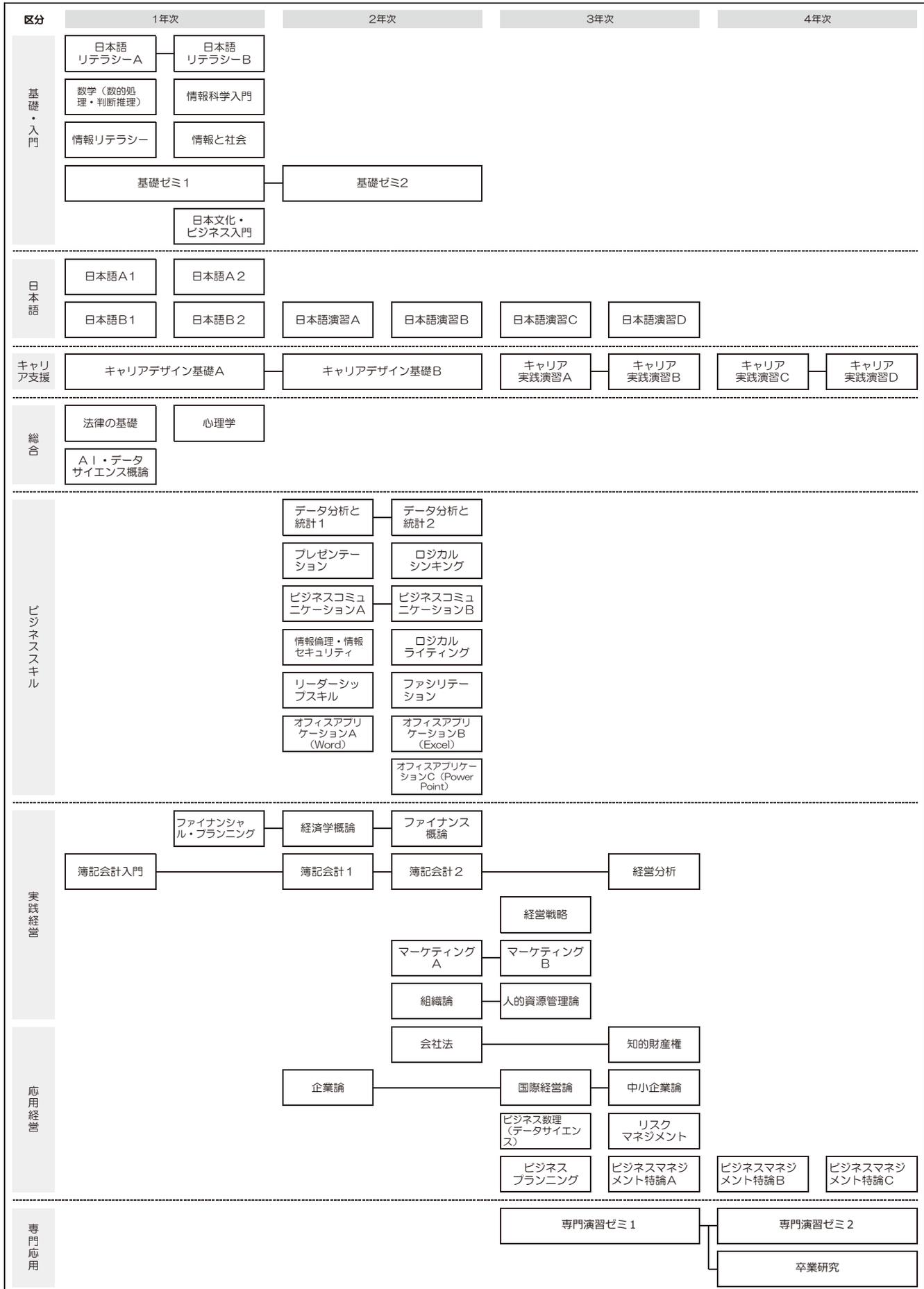
カリキュラムツリー 現代ビジネスモデル



授業科目表 現代ビジネスモデル

科目区分	授業科目の名称	単位数	開講年次・学期、必修・選択科目の区分								備考 【※印の授業科目の開講学期は、 時間割表で確認してください。】	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			春	夏・秋	春	夏・秋	春	夏・秋	春	夏・秋		
総合科目	世界史	2		○※							選択必修 8単位以上	
	日本史	2		○※								
	法律の基礎	2		○※								
	ファイナンシャル・プランニング	2		○※								
	簿記会計入門（簿記4級レベル）	2		○※								
	色彩学入門	2		○※								
	デザイン基礎A	2		○※								
	デザイン基礎B	2		○※								
	心理学	2		○※								
	コンピュータ言語入門	2		○※								
	A I ・データサイエンス概論	2		○※								
特別教養講座A	1									必修 8単位		
特別教養講座B	1											
EAP Basic1	4	●										
EAP Basic2	4		●									
EAP Basic (next) 1	4				○※							
EAP Basic (next) 2	4				○※							
EB Communication Strategies	2	○										
EB Effective Presentation Skills	2	○										
EI Enhanced Speaking Skills	2		○									
EI Enhanced Writing Skills	2		○									
EA Advanced Speaking Skills	2			○								
EA Advanced Writing Skills	2				○							
基礎科目	基礎ゼミ1	2		●							必修 16単位	
	基礎ゼミ2	2			●							
	日本語リテラシーA	2	●									
	日本語リテラシーB	2		●								
	数学（数的処理・判断推理）	2	●									
	情報リテラシー	2	●									
	情報科学入門	2		●								
情報と社会	2		●									
モデル入門科目	現代ビジネス入門	2		○							選択必修 2単位以上	
ビジネススキル科目	プレゼンテーション	2			○※						選択 10単位以上	
	データ分析と統計1	2			○※							
	データ分析と統計2	2			○※							
	ロジカルシンキング	2			○※							
	リーダーシップスキル	2			○※							
	ファシリテーション	2			○※							
	オフィスアプリケーションA (Word)	2			○※							
	オフィスアプリケーションB (Excel)	2			○※							
	オフィスアプリケーションC (Power Point)	2			○※							
	ビジネスコミュニケーションA	2			○※							
	ビジネスコミュニケーションB	2			○※							
	ロジカルライティング	2			○※							
情報倫理・情報セキュリティ	2			○※								
専門科目	現代ビジネス系	経営戦略	2					○			選択 24単位以上 開講年次、学期が変更される場合がありますので、 時間割表で確認してください。	
		経営分析	2					○				
		企業論	2			○						
		マーケティングA	2			○						
		マーケティングB	2				○					
		簿記会計1（簿記3級レベル）	4			○						
		簿記会計2（簿記2級レベル）	4				○					
		人的資源管理論	2					○				
		ファイナンス概論	2				○					
		国際経営論	2					○				
		経済学概論（起業論）	2			○						
		中小企業論（起業論）	2					○				
		ビジネスプランニング	2					○				
		リスクマネジメント	2						○			
		組織論	2				○					
		ビジネスマネジメント特論A	2						○			
		ビジネスマネジメント特論B	2							○		
		ビジネスマネジメント特論C	2									○
	会社法	2						○				
	知的財産権	2							○			
ビジネス数理（データサイエンス）	2							○				
スクラ ディバ 系ル	Basic Skills for TOEIC A（TOEIC初級A）	2	○									
	Basic Skills for TOEIC B（TOEIC初級B）	2		○								
	Intermediate Skills for TOEIC A（TOEIC中級A）	2			○							
	Intermediate Skills for TOEIC B（TOEIC中級B）	2				○						
情A 報I 系	情報活用と危機管理	2							○			
	ネットワーク活用	2		○								
	A I の活用	2		○								
専門応用科目	専門演習ゼミ1	4					●				必修 8単位	
	専門演習ゼミ2	4							●			
	卒業研究	4								○		
海外留学 関連科目	Study Abroad Preparation	2		○							自由科目の単位になります。	
	海外留学/Global Academic Study Programme	12			○							
	現地報告演習	2			○							
キャリア 支援科目	キャリアデザイン基礎A	2	●								必修 12単位	
	キャリアデザイン基礎B	2			●							
	キャリア実践演習A	2				●						
	キャリア実践演習B	2					●					
	キャリア実践演習C	2						●				
キャリア実践演習D	2							●				

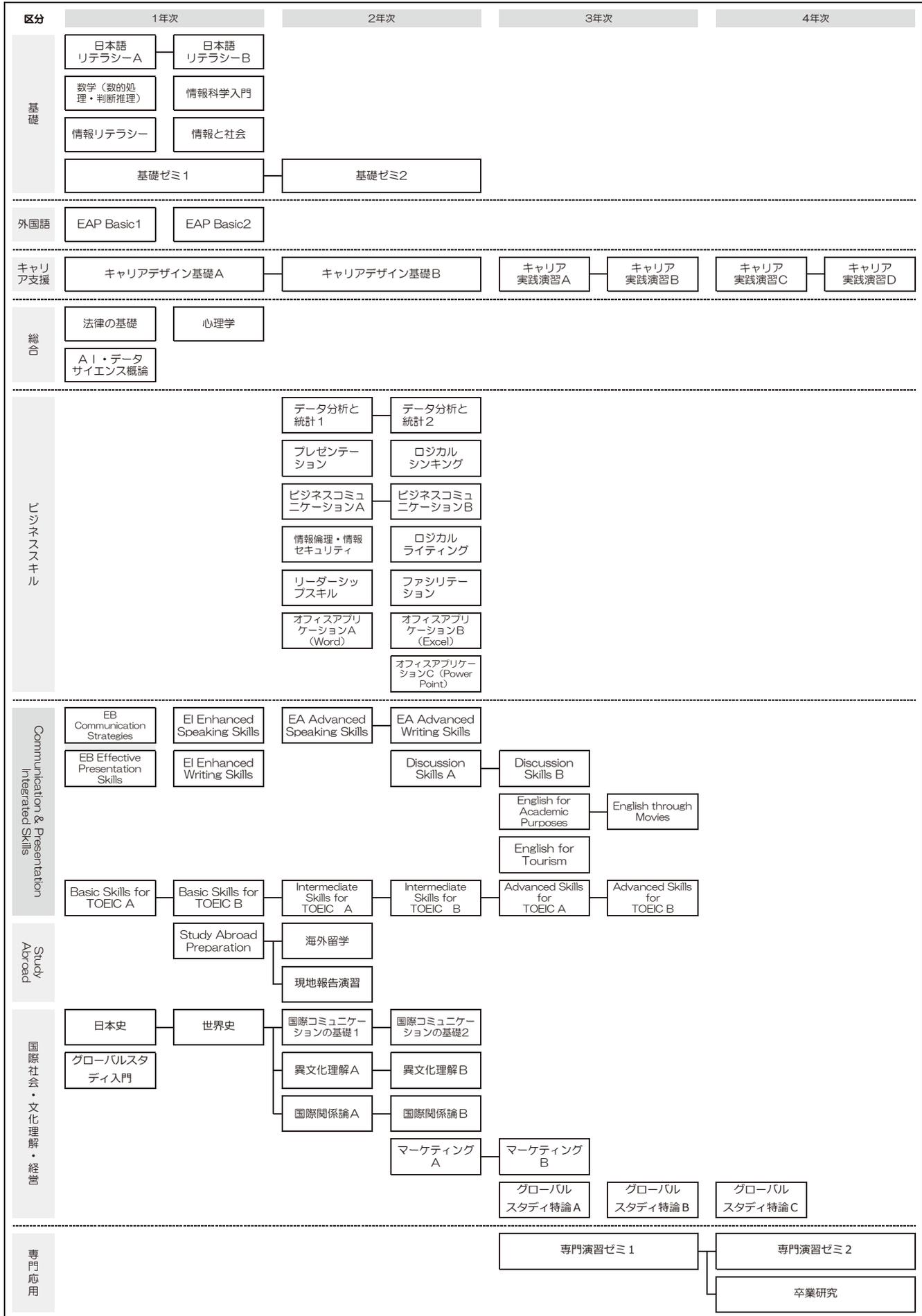
カリキュラムツリー 日本文化・ビジネスモデル



授業科目表 日本文化・ビジネスモデル

科目区分	授業科目の名称	単位数	開講年次・学期、必修・選択科目の区分								備考 ※印の授業科目の開講学期は、 時間割表で確認してください。
			1年次		2年次		3年次		4年次		
			春	夏・秋	春	夏・秋	春	夏・秋	春	夏・秋	
総合科目	世界史	2		○※							選択必修 8単位以上
	日本史	2		○※							
	法律の基礎	2		○※							
	ファイナンシャル・プランニング	2		○※							
	簿記会計入門(簿記4級レベル)	2		○※							
	色彩学入門	2		○※							
	デザイン基礎A	2		○※							
	デザイン基礎B	2		○※							
	心理学	2		○※							
	コンピュータ言語入門	2		○※							
	A1・データサイエンス概論	2		○※							
特別教養講座A	1										
特別教養講座B	1										
日本語科目	日本語A1	4	●								必修 16単位
	日本語B1	4	●								
	日本語A2	4		●							
	日本語B2	4		●							
	日本語演習A(日本語能力検定N1)	4			○						
	日本語演習B(JPT対策)	4				○					
	日本語演習C(日本語コミュニケーションⅠ)	2					○				
日本語演習D(日本語コミュニケーションⅡ)	2						○				
基礎科目	基礎ゼミ1	2		●							必修 16単位
	基礎ゼミ2	2			●						
	日本語リテラシーA	2		●							
	日本語リテラシーB	2			●						
	数学(数的処理・判断推理)	2		●							
	情報リテラシー	2		●							
	情報科学入門	2			●						
情報と社会	2			●							
モデル入門科目	日本文化・ビジネス入門	2		○							選択必修 2単位以上
ビジネススキル科目	プレゼンテーション	2			○※						選択 10単位以上
	データ分析と統計1	2			○※						
	データ分析と統計2	2			○※						
	ロジカルシンキング	2			○※						
	リーダーシップスキル	2			○※						
	ファシリテーション	2			○※						
	オフィスアプリケーションA(Word)	2			○※						
	オフィスアプリケーションB(Excel)	2			○※						
	オフィスアプリケーションC(Power Point)	2			○※						
	ビジネスコミュニケーションA	2			○※						
	ビジネスコミュニケーションB	2			○※						
ロジカルライティング	2			○※							
情報倫理・情報セキュリティ	2			○※							
専門科目	現代ビジネス系	経営戦略	2					○			選択 24単位以上
		経営分析	2						○		
		企業論	2			○					
		マーケティングA	2				○				
		マーケティングB	2					○			
		簿記会計1(簿記3級レベル)	4			○					
		簿記会計2(簿記2級レベル)	4				○				
		人的資源管理論	2					○			
		ファイナンス概論	2				○				
		国際経営論	2					○			
		経済学概論	2			○					
		中小企業論(起業論)	2						○		
		ビジネスプランニング	2					○			
		リスクマネジメント	2						○		
		組織論	2				○				
		ビジネスマネジメント特論A	2						○		
		ビジネスマネジメント特論B	2							○	
ビジネスマネジメント特論C	2							○			
会社法	2					○					
知的財産権	2						○				
ビジネス数学(データサイエンス)	2						○				
専門応用科目	専門演習ゼミ1	4						●		必修 8単位	
	専門演習ゼミ2	4							●		
	卒業研究	4									○
海外留学関連科目	Study Abroad Preparation	2		○						自由科目の単位となります。	
	海外留学/Global Academic Study Programme	12			○						
	現地報告演習	2			○						
キャリア支援科目	キャリアデザイン基礎A	2		●						必修 12単位	
	キャリアデザイン基礎B	2			●						
	キャリア実践演習A	2				●					
	キャリア実践演習B	2					●				
	キャリア実践演習C	2						●			
キャリア実践演習D	2							●			

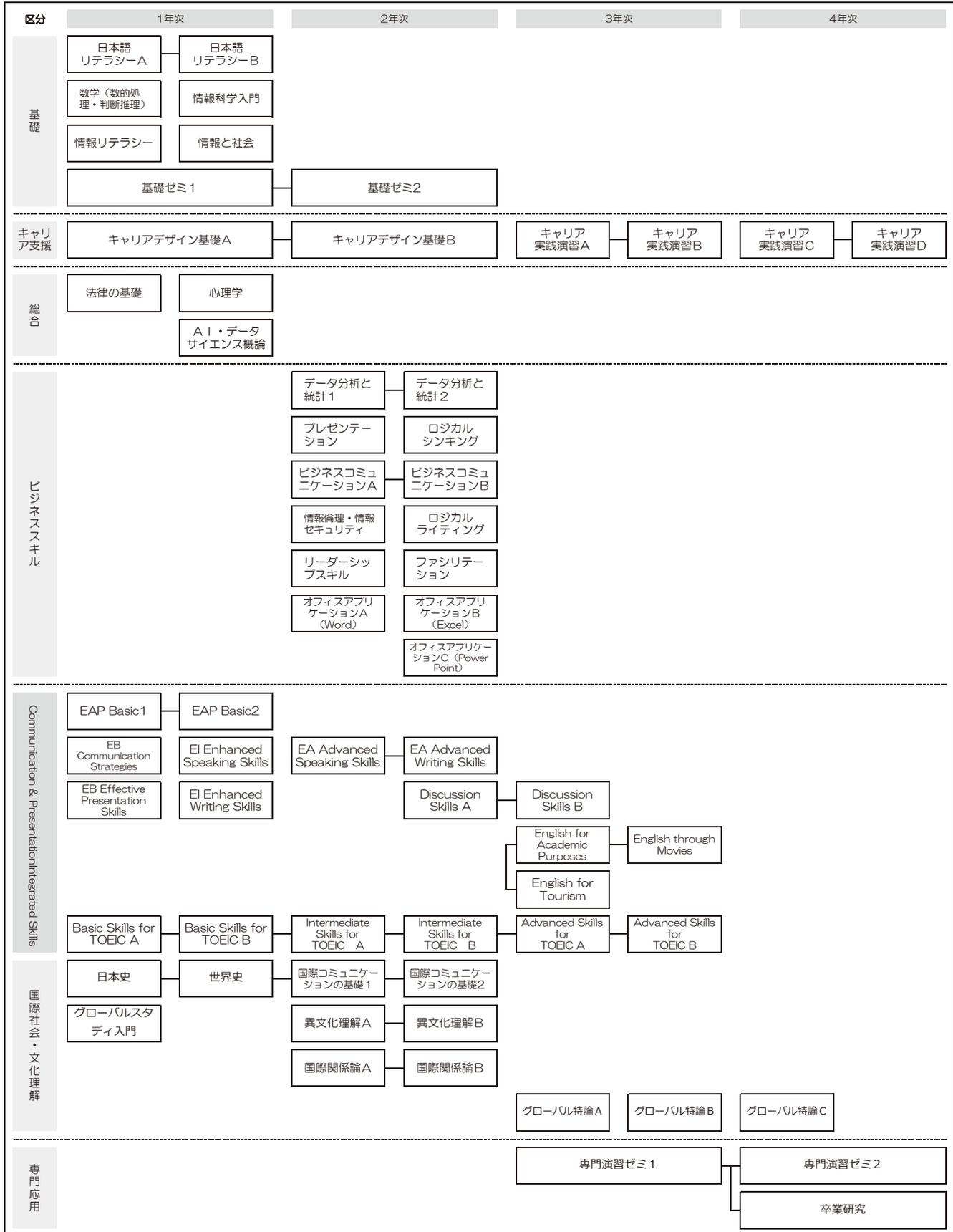
カリキュラムツリー 国際教養モデル



授業科目表 国際教養モデル

科目区分	授業科目の名称	単位数	開講年次・学期、必修・選択科目の区分								備考 ※印の授業科目の開講学期は、 時間割表で確認してください。			
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			春	夏	秋	春	夏	秋	春	夏		秋		
総合科目	世界史	2	○※										選択必修 8単位以上	
	日本史	2	○※											
	法律の基礎	2	○※											
	ファイナンシャル・プランニング	2	○※											
	簿記会計入門(簿記4級レベル)	2	○※											
	色彩学入門	2	○※											
	デザイン基礎A	2	○※											
	デザイン基礎B	2	○※											
	心理学	2	○※											
	コンピュータ言語入門	2	○※											
	A I・データサイエンス概論	2	○※											
特別教養講座A	1													
特別教養講座B	1													
外国語科目	EAP Basic1	4	●										必修 8単位	
	EAP Basic2	4		●										
	EAP Basic (next) 1	4			○※									
	EAP Basic (next) 2	4			○※									
	EB Communication Strategies	2	○											
	EB Effective Presentation Skills	2	○											
	EI Enhanced Speaking Skills	2		○										
	EI Enhanced Writing Skills	2		○										
	EA Advanced Speaking Skills	2			○									
EA Advanced Writing Skills	2				○									
基礎科目	基礎ゼミ1	2		●									必修 16単位	
	基礎ゼミ2	2			●									
	日本語リテラシーA	2	●											
	日本語リテラシーB	2		●										
	数学(数的処理・判断推理)	2	●											
	情報リテラシー	2	●											
	情報科学入門	2		●										
	情報と社会	2		●										
モデル入門科目	グローバルスタディ入門	2		○								選択必修 2単位以上		
ビジネススキル科目	プレゼンテーション	2			○※								選択 10単位以上	
	データ分析と統計1	2			○※									
	データ分析と統計2	2			○※									
	ロジカルシンキング	2			○※									
	リーダーシップスキル	2			○※									
	ファシリテーション	2			○※									
	オフィスアプリケーションA (Word)	2			○※									
	オフィスアプリケーションB (Excel)	2			○※									
	オフィスアプリケーションC (Power Point)	2			○※									
	ビジネスコミュニケーションA	2			○※									
	ビジネスコミュニケーションB	2			○※									
ロジカルライティング	2			○※										
情報倫理・情報セキュリティ	2			○※										
専門科目	現代ビジネス系	マーケティングA	2					○					選択 24単位以上	
		マーケティングB	2					○						
	グローバルスタディ系	English through Movies	2							○				
		English for Tourism	2						○					
		Discussion Skills A	2						○					
		Discussion Skills B	2						○					
		Basic Skills for TOEIC A (TOEIC初級A)	2	○										
		Basic Skills for TOEIC B (TOEIC初級B)	2		○									
		Intermediate Skills for TOEIC A (TOEIC中級A)	2			○								
		Intermediate Skills for TOEIC B (TOEIC中級B)	2				○							
		Advanced Skills for TOEIC A (TOEIC上級A)	2					○						
		Advanced Skills for TOEIC B (TOEIC上級B)	2						○					
		English for Academic Purposes	2						○					
		国際コミュニケーションの基礎1	2					○						
		国際コミュニケーションの基礎2	2					○						
		異文化理解A/Crosscultural Understanding A	2					○						
		異文化理解B/Crosscultural Understanding B	2					○						
		国際関係論A/International relations theory	2					○						
		国際関係論B/International relations theory	2					○						
		Study Abroad Preparation	2		○									
海外留学/Global Academic Study Programme	12					○								
現地報告演習	2					○								
グローバルスタディ特論A	2						○							
グローバルスタディ特論B	2							○						
グローバルスタディ特論C	2								○					
専門応用科目	専門演習ゼミ1	4						●					必修 8単位	
	専門演習ゼミ2	4									●			
	卒業研究	4										○		
キャリア支援科目	キャリアデザイン基礎A	2		●									必修 12単位	
	キャリアデザイン基礎B	2			●									
	キャリア実践演習A	2						●						
	キャリア実践演習B	2							●					
	キャリア実践演習C	2								●				
	キャリア実践演習D	2									●			

カリキュラムツリー 英語コミュニケーションモデル



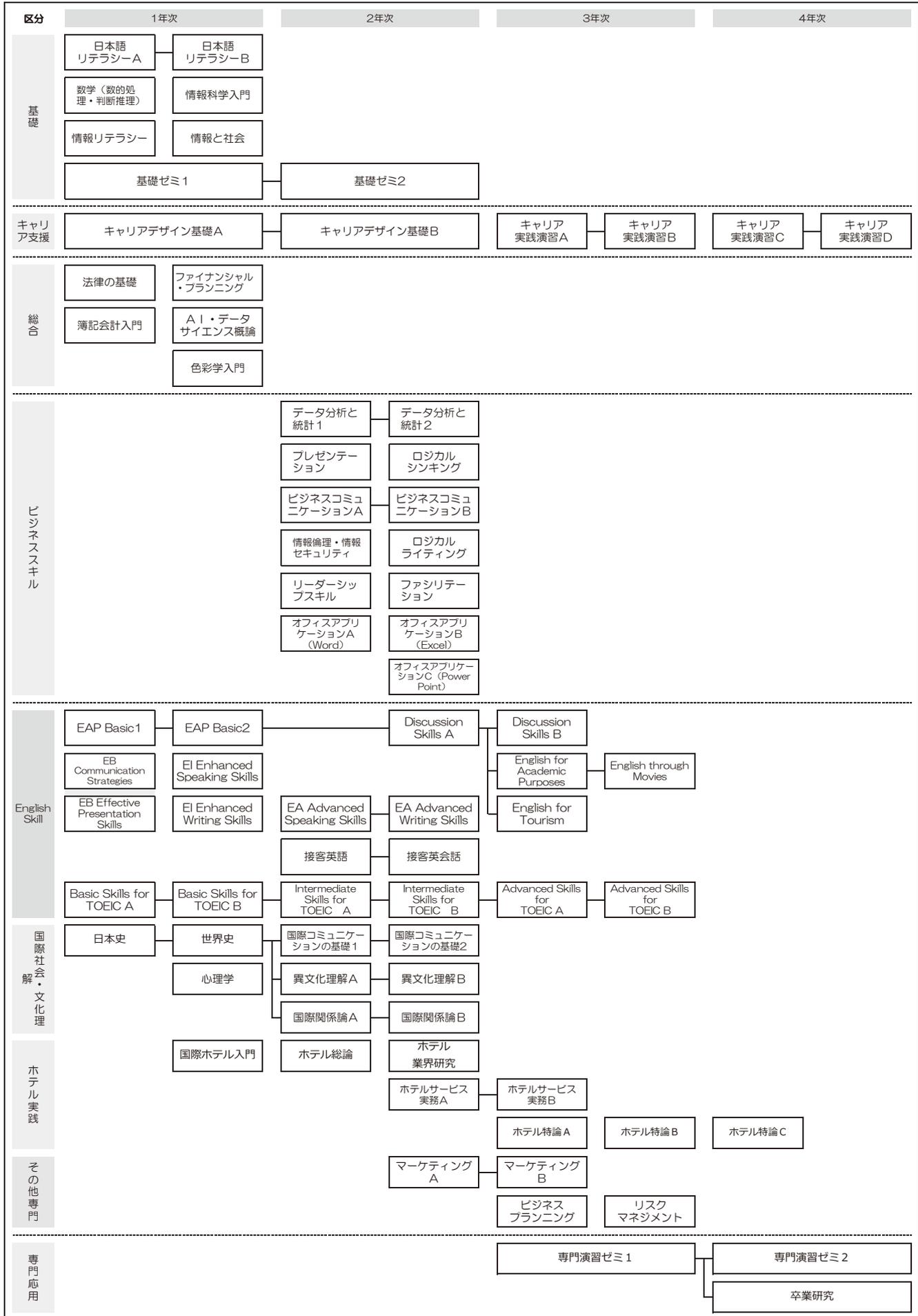
授業科目表 英語コミュニケーションモデル

科目区分	授業科目の名称	単位数	開講年次・学期、必修・選択科目の区分								備考 ※印の授業科目の開講学期は、 時間割表で確認してください。
			1年次		2年次		3年次		4年次		
			春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
総合科目	世界史	2		○※							選択必修 8単位以上
	日本史	2		○※							
	法律の基礎	2		○※							
	ファイナンシャル・プランニング	2		○※							
	簿記会計入門（簿記4級レベル）	2		○※							
	色彩学入門	2		○※							
	デザイン基礎A	2		○※							
	デザイン基礎B	2		○※							
	心理学	2		○※							
	コンピュータ言語入門	2		○※							
A1・データサイエンス概論	2		○※								
特別教養講座A	1										
特別教養講座B	1										
外国語科目	EAP Basic1	4	●								必修 8単位
	EAP Basic2	4		●							
	EAP Basic (next) 1	4				○※					
	EAP Basic (next) 2	4				○※					
	EB Communication Strategies	2	○								
	EB Effective Presentation Skills	2	○								
	EI Enhanced Speaking Skills	2		○							
	EI Enhanced Writing Skills	2		○							
	EA Advanced Speaking Skills	2			○						
	EA Advanced Writing Skills	2				○					
基礎科目	基礎ゼミ1	2		●							必修 16単位
	基礎ゼミ2	2				●					
	日本語リテラシーA	2		●							
	日本語リテラシーB	2			●						
	数学（数的処理・判断推理）	2		●							
	情報リテラシー	2		●							
	情報科学入門	2			●						
情報と社会	2			●							
モデル入門科目	グローバルスタディ入門	2		○							選択必修 2単位以上
ビジネススキル科目	プレゼンテーション	2				○※					選択 10単位以上
	データ分析と統計1	2				○※					
	データ分析と統計2	2				○※					
	ロジカルシンキング	2				○※					
	リーダーシップスキル	2				○※					
	ファシリテーション	2				○※					
	オフィスアプリケーションA (Word)	2				○※					
	オフィスアプリケーションB (Excel)	2				○※					
	オフィスアプリケーションC (Power Point)	2				○※					
	ビジネスコミュニケーションA	2				○※					
	ビジネスコミュニケーションB	2				○※					
ロジカルライティング	2				○※						
情報倫理・情報セキュリティ	2				○※						
専門科目	グローバルスタディ系	English through Movies	2							○	選択 24単位以上 開講年次、学期が変更されることがありますので、時間割表で確認してください。
		English for Tourism	2						○		
		Discussion Skills A	2				○				
		Discussion Skills B	2					○			
		Basic Skills for TOEIC A (TOEIC初級A)	2	○							
		Basic Skills for TOEIC B (TOEIC初級B)	2		○						
		Intermediate Skills for TOEIC A (TOEIC中級A)	2			○					
		Intermediate Skills for TOEIC B (TOEIC中級B)	2				○				
		Advanced Skills for TOEIC A (TOEIC上級A)	2					○			
		Advanced Skills for TOEIC B (TOEIC上級B)	2						○		
		English for Academic Purposes	2					○			
		国際コミュニケーションの基礎1	2			○					
		国際コミュニケーションの基礎2	2				○				
		異文化理解A/Crosscultural Understanding A	2			○					
		異文化理解B/Crosscultural Understanding B	2				○				
		国際関係論A/International relations theory	2			○					
		国際関係論B/International relations theory	2				○				
グローバルスタディ特論A	2					○					
グローバルスタディ特論B	2						○				
グローバルスタディ特論C	2							○			
専門応用科目	専門演習ゼミ1	4								●	必修 8単位
	専門演習ゼミ2	4								●	
	卒業研究	4								○	
海外留学関連科目	Study Abroad Preparation	2		○							自由科目の単位となります。
	海外留学/Global Academic Study Programme	12			○						
	現地報告演習	2			○						
キャリア支援科目	キャリアデザイン基礎A	2		●							必修 12単位
	キャリアデザイン基礎B	2			●						
	キャリア実践演習A	2				●					
	キャリア実践演習B	2					●				
	キャリア実践演習C	2						●			
キャリア実践演習D	2							●			

授業科目表 国際エアラインモデル

科目区分	授業科目の名称	単位数	開講年次・学期、必修・選択科目の区分								備考 ※印の授業科目の開講学期は、 時間割表で確認してください。	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			春	夏	秋	春	夏	秋	春	夏		秋
総合科目	世界史	2	○	※								選択必修 8単位以上
	日本史	2	○	※								
	法律の基礎	2	○	※								
	ファイナンシャル・プランニング	2	○	※								
	簿記会計入門(簿記4級レベル)	2	○	※								
	色彩学入門	2	○	※								
	デザイン基礎A	2	○	※								
	デザイン基礎B	2	○	※								
	心理学	2	○	※								
	コンピュータ言語入門	2	○	※								
	A1・データサイエンス概論	2	○	※								
特別教養講座A	1											
特別教養講座B	1											
外国語科目	EAP Basic1	4	●									必修 8単位
	EAP Basic2	4		●								
	EAP Basic (next) 1	4			○	※						
	EAP Basic (next) 2	4			○	※						
	EB Communication Strategies	2	○									
	EB Effective Presentation Skills	2	○									
	EI Enhanced Speaking Skills	2		○								
	EI Enhanced Writing Skills	2		○								
基礎科目	EA Advanced Speaking Skills	2			○							
	EA Advanced Writing Skills	2			○							
	基礎ゼミ1	2		●								必修 16単位
	基礎ゼミ2	2			●							
	日本語リテラシーA	2	●									
	日本語リテラシーB	2		●								
	数学(数的処理・判断推理)	2	●									
	情報リテラシー	2	●									
情報科学入門	2		●									
情報と社会	2		●									
モデル入門科目	国際エアライン入門	2	○								選択必修 2単位以上	
ビジネススキル科目	プレゼンテーション	2			○	※						選択 10単位以上
	データ分析と統計1	2			○	※						
	データ分析と統計2	2			○	※						
	ロジカルシンキング	2			○	※						
	リーダーシップスキル	2			○	※						
	ファシリテーション	2			○	※						
	オフィスアプリケーションA (Word)	2			○	※						
	オフィスアプリケーションB (Excel)	2			○	※						
	オフィスアプリケーションC (Power Point)	2			○	※						
	ビジネスコミュニケーションA	2			○	※						
ビジネスコミュニケーションB	2			○	※							
ロジカルライティング	2			○	※							
情報倫理・情報セキュリティ	2			○	※							
専門科目	現代ビジネス系	マーケティングA	2			○						選択 24単位以上
		マーケティングB	2			○						
		ビジネスプランニング	2			○						
		リスクマネジメント	2					○				
	グローバルスタディ系	English through Movies	2						○			
		English for Tourism	2					○				
		Discussion Skills A	2				○					
		Discussion Skills B	2					○				
		Basic Skills for TOEIC A (TOEIC初級A)	2	○								
		Basic Skills for TOEIC B (TOEIC初級B)	2		○							
		Intermediate Skills for TOEIC A (TOEIC中級A)	2			○						
		Intermediate Skills for TOEIC B (TOEIC中級B)	2				○					
		Advanced Skills for TOEIC A (TOEIC上級A)	2					○				
		Advanced Skills for TOEIC B (TOEIC上級B)	2						○			
		English for Academic Purposes	2					○				
		国際コミュニケーションの基礎1	2			○						
	国際コミュニケーションの基礎2	2				○						
	異文化理解A/Crosscultural Understanding A	2			○							
	異文化理解B/Crosscultural Understanding B	2				○						
	国際関係論A/International relations theory	2			○							
国際関係論B/International relations theory	2				○							
国際ホテル系	接客英語	2			○							
	接客英会話	2			○							
	航空ビジネス	2			○							
	エアライン業界研究	2				○						
	エアラインキャリア実践演習A	2				○						
	エアラインキャリア実践演習B	2					○					
	エアライン特論A	2					○					
	エアライン特論B	2						○				
エアライン特論C	2							○				
専門応用科目	専門演習ゼミ1	4						●			必修 8単位	
	専門演習ゼミ2	4							●			
	卒業研究	4								○		
海外留学関連科目	Study Abroad Preparation	2		○							自由科目の単位となります。	
	海外留学/Global Academic Study Programme	12			○							
	現地報告演習	2			○							
キャリア支援科目	キャリアデザイン基礎A	2	●								必修 12単位	
	キャリアデザイン基礎B	2		●								
	キャリア実践演習A	2				●						
	キャリア実践演習B	2					●					
	キャリア実践演習C	2						●				
	キャリア実践演習D	2							●			

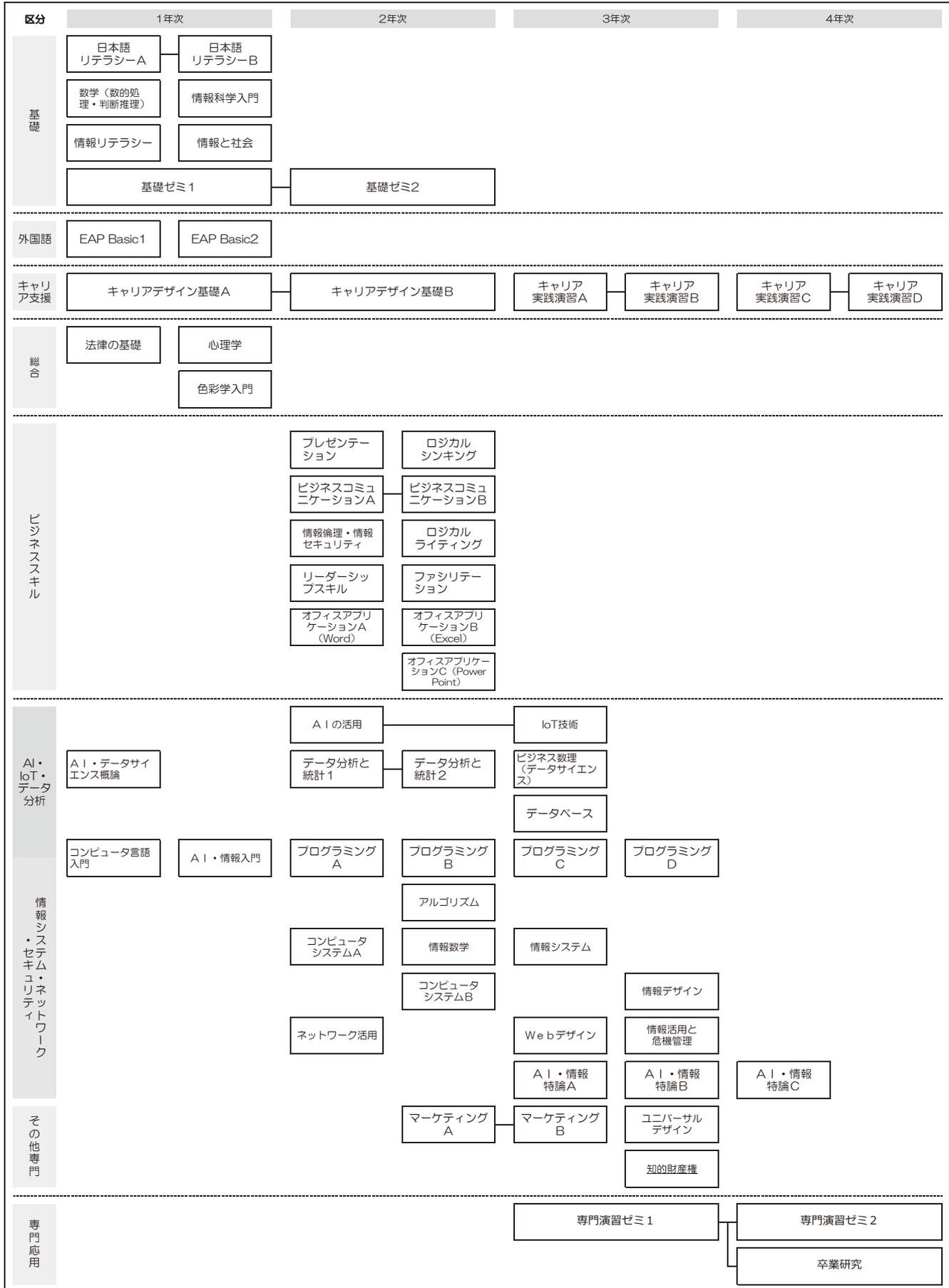
カリキュラムツリー 国際ホテルモデル



授業科目表 国際ホテルモデル

科目区分	授業科目の名称	単位数	開講年次・学期・必修・選択科目の区分								備考 ※印の授業科目の開講学期は、 時間割表で確認してください。	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
総合科目	世界史	2	○※									選択必修 8単位以上
	日本史	2	○※									
	法律の基礎	2	○※									
	ファイナンシャル・プランニング	2	○※									
	簿記会計入門(簿記4級レベル)	2	○※									
	色彩学入門	2	○※									
	デザイン基礎A	2	○※									
	デザイン基礎B	2	○※									
	心理学	2	○※									
	コンピュータ言語入門	2	○※									
	AI・データサイエンス概論	2	○※									
	特別教養講座A	1										
特別教養講座B	1											
外国語科目	EAP Basic1	4	●									必修 8単位
	EAP Basic2	4		●								
	EAP Basic (next) 1	4			○※							
	EAP Basic (next) 2	4			○※							
	EB Communication Strategies	2	○									
	EB Effective Presentation Skills	2	○									
	EI Enhanced Speaking Skills	2		○								
	EI Enhanced Writing Skills	2		○								
基礎科目	EA Advanced Speaking Skills	2			○							
	EA Advanced Writing Skills	2				○						
	基礎ゼミ1	2		●								必修 16単位
	基礎ゼミ2	2			●							
	日本語リテラシーA	2	●									
	日本語リテラシーB	2		●								
	数学(数的処理・判断推理)	2	●	●								
情報リテラシー	2	●										
情報科学入門	2		●									
情報と社会	2		●									
モデル入門科目	国際ホテル入門	2	○								選択必修 2単位以上	
ビジネススキル科目	プレゼンテーション	2			○※							選択 10単位以上
	データ分析と統計1	2			○※							
	データ分析と統計2	2			○※							
	ロジカルシンキング	2			○※							
	リーダーシップスキル	2			○※							
	ファシリテーション	2			○※							
	オフィスアプリケーションA (Word)	2			○※							
	オフィスアプリケーションB (Excel)	2			○※							
	オフィスアプリケーションC (Power Point)	2			○※							
	ビジネスコミュニケーションA	2			○※							
	ビジネスコミュニケーションB	2			○※							
ロジカルライティング	2			○※								
情報倫理・情報セキュリティ	2			○※								
専門科目	現代ビジネス系	マーケティングA	2				○					選択 24単位以上 開講年次、学期が変更されることがありますので、時間
		マーケティングB	2					○				
		ビジネスプランニング	2						○			
		リスクマネジメント	2									
	グローバルスタディ系	English through Movies	2							○		
		English for Tourism	2							○		
		Discussion Skills A	2				○					
		Discussion Skills B	2					○				
		Basic Skills for TOEIC A (TOEIC初級A)	2	○								
		Basic Skills for TOEIC B (TOEIC初級B)	2		○							
		Intermediate Skills for TOEIC A (TOEIC中級A)	2			○						
		Intermediate Skills for TOEIC B (TOEIC中級B)	2				○					
		Advanced Skills for TOEIC A (TOEIC上級A)	2					○				
		Advanced Skills for TOEIC B (TOEIC上級B)	2						○			
		English for Academic Purposes	2							○		
		国際コミュニケーションの基礎1	2			○						
	国際コミュニケーションの基礎2	2				○						
	異文化理解A/Crosscultural Understanding A	2			○							
	異文化理解B/Crosscultural Understanding B	2				○						
	国際関係論A/International relations theory	2			○							
国際関係論B/International relations theory	2				○							
国際ホテル系	接客英語	2			○							
	接客英会話	2				○						
	ホテル総論	2			○							
	ホテル業界研究	2				○						
	ホテルサービス実務A	2				○						
	ホテルサービス実務B	2					○					
	ホテル特論A	2						○				
ホテル特論B	2							○				
ホテル特論C	2								○			
専門応用科目	専門演習ゼミ1	4					●				必修 8単位	
	専門演習ゼミ2	4								●		
	卒業研究	4								○		
海外留学関連科目	Study Abroad Preparation	2		○							自由科目の単位となります。	
	海外留学/Global Academic Study Programme	12			○							
	現地報告演習	2			○							
キャリア支援科目	キャリアデザイン基礎A	2	●								必修 12単位	
	キャリアデザイン基礎B	2			●							
	キャリア実践演習A	2				●						
	キャリア実践演習B	2					●					
	キャリア実践演習C	2						●				
	キャリア実践演習D	2							●			

カリキュラムツリー AI・情報モデル

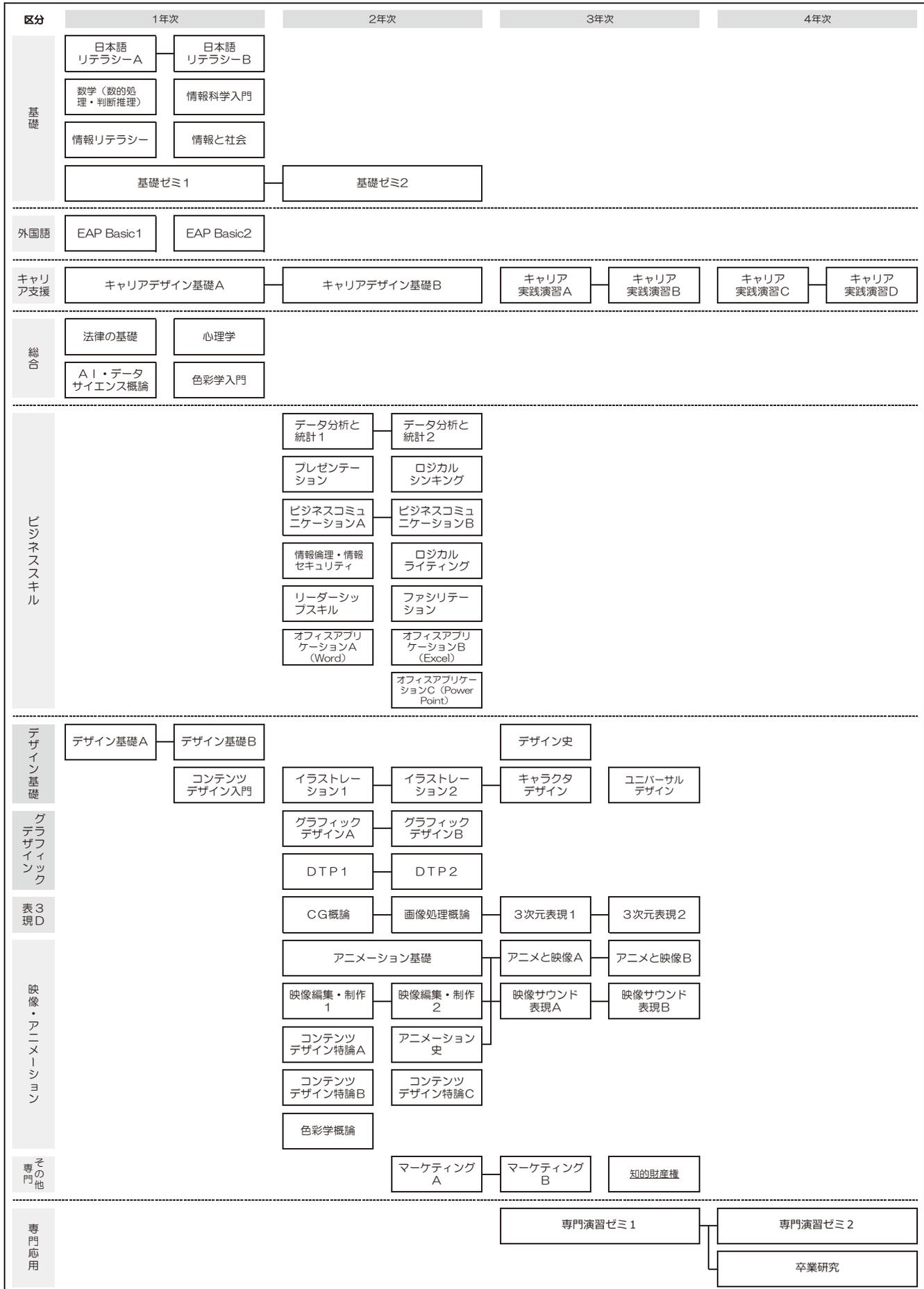


授業科目表 A1・情報モデル

科目区分	授業科目の名称	単位数	開講年次・学期、必修・選択科目の区分								備考 ※印の授業科目の開講学期は、 時間割表で確認してください。	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			春	夏	秋	春	夏	秋	春	夏		秋
総合科目	世界史	2		○※								選択必修 8単位以上
	日本史	2		○※								
	法律の基礎	2		○※								
	ファイナンシャル・プランニング	2		○※								
	簿記会計入門(簿記4級レベル)	2		○※								
	色彩学入門	2		○※								
	デザイン基礎A	2		○※								
	デザイン基礎B	2		○※								
	心理学	2		○※								
	コンピュータ言語入門	2		○※								
	A1・データサイエンス概論	2		○※								
特別教養講座A	1											
特別教養講座B	1											
外国語科目	EAP Basic1	4	●									必修 8単位
	EAP Basic2	4		●								
	EAP Basic (next) 1	4				○※						
	EAP Basic (next) 2	4				○※						
	EB Communication Strategies	2	○									
	EB Effective Presentation Skills	2	○									
	EI Enhanced Speaking Skills	2		○								
	EI Enhanced Writing Skills	2		○								
基礎科目	EA Advanced Speaking Skills	2			○							必修 16単位
	EA Advanced Writing Skills	2			○							
	基礎ゼミ1	2		●								
	基礎ゼミ2	2			●							
	日本語リテラシーA	2	●									
	日本語リテラシーB	2		●								
	数学(数的処理・判断推理)	2	●									
	情報リテラシー	2	●									
情報科学入門	2		●									
情報と社会	2		●									
モデル入門科目	A1・情報入門	2		○							選択必修 2単位以上	
ビジネススキル科目	プレゼンテーション	2			○※						選択 10単位以上	
	データ分析と統計1	2			○※							
	データ分析と統計2	2			○※							
	ロジカルシンキング	2			○※							
	リーダーシップスキル	2			○※							
	ファシリテーション	2			○※							
	オフィスアプリケーションA (Word)	2			○※							
	オフィスアプリケーションB (Excel)	2			○※							
	オフィスアプリケーションC (Power Point)	2			○※							
	ビジネスコミュニケーションA	2			○※							
ビジネスコミュニケーションB	2			○※								
ロジカルライティング	2			○※								
情報倫理・情報セキュリティ	2			○※								
専門科目	現代ビジネ ス系	マーケティングA	2				○				選択 24単位以上	
		マーケティングB	2				○					
		知的財産権	2					○				
		ビジネス数理(データサイエンス)	2					○				
	コンテ ンツ デザイン系	ユニバーサルデザイン	2					○				
		A1・情報系	プログラミングA	4			○					
	プログラミングB		4				○					
	プログラミングC		2					○				
	プログラミングD		2						○			
	アルゴリズム		2				○					
	データベース		2					○				
	Webデザイン		2					○				
	情報デザイン		2						○			
	情報システム		2						○			
	情報数学		2					○				
	情報活用と危機管理		2						○			
	ネットワーク活用		2			○						
	IoT技術		2					○				
	A1の活用		2			○						
	A1・情報特論A		2					○				
A1・情報特論B	2							○				
A1・情報特論C	2							○				
コンピュータシステムA	2				○							
コンピュータシステムB	2					○						
専門応用科目	専門演習ゼミ1	4						●			必修 8単位	
	専門演習ゼミ2	4							●			
	卒業研究	4								○		
海外留学 関連科目	Study Abroad Preparation	2		○							自由科目の単位となります。	
	海外留学/Global Academic Study Programme	12			○							
	現地報告演習	2			○							
キャリア 支援科目	キャリアデザイン基礎A	2		●							必修 12単位	
	キャリアデザイン基礎B	2			●							
	キャリア実践演習A	2				●						
	キャリア実践演習B	2					●					
	キャリア実践演習C	2						●				
キャリア実践演習D	2							●				

開講年次、学期が変更されることがありますので、時間割表で確認してください。

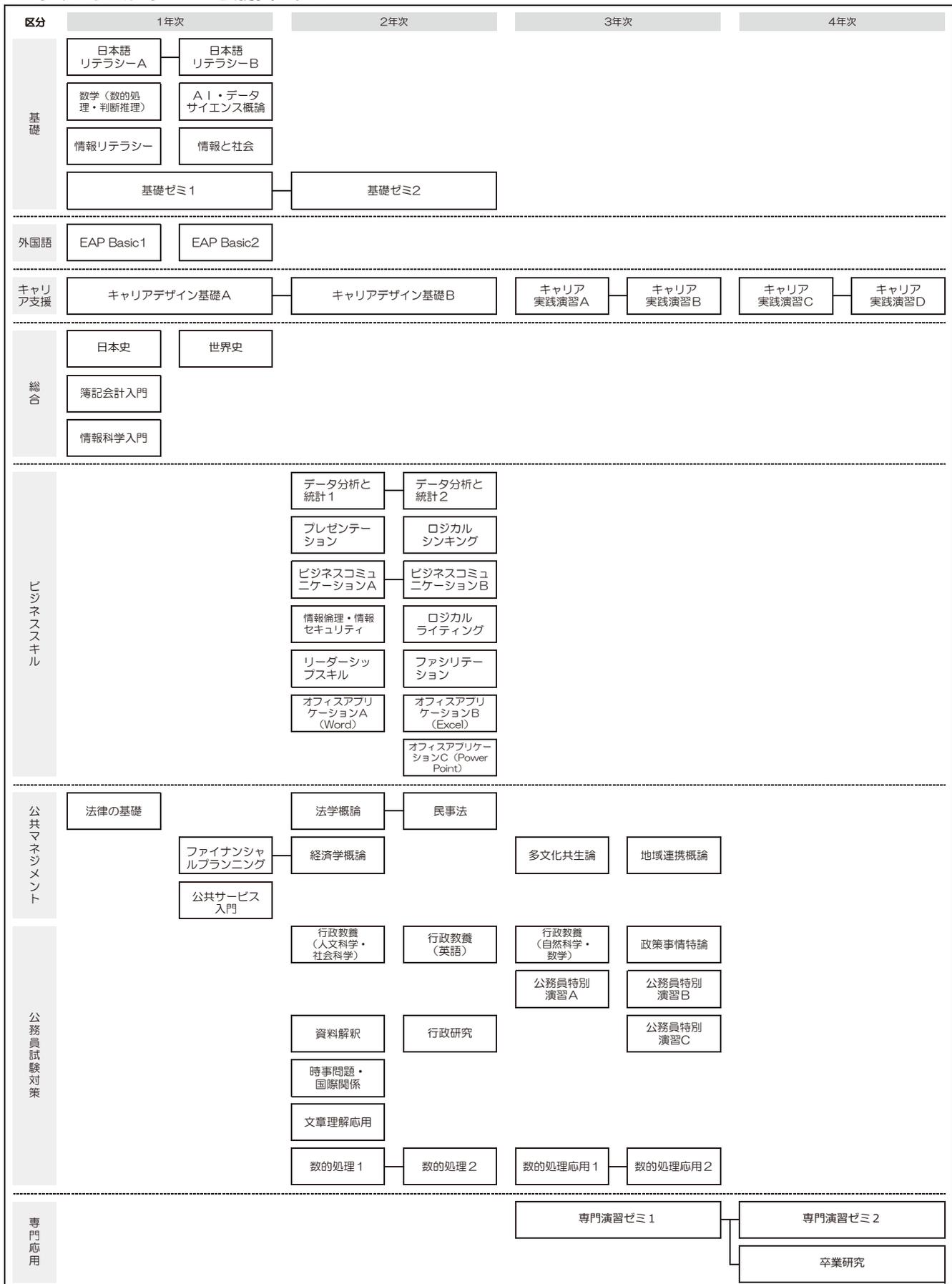
カリキュラムツリー コンテンツデザインモデル



授業科目表 コンテンツデザインモデル

科目区分	授業科目の名称	単位数	開講年次・学期、必修・選択科目の区分				備考 ※印の授業科目の開講学期は、時間割表で確認してください。	
			1年次	2年次	3年次	4年次		
			春・夏 秋	春・夏 秋	春・夏 秋	春・夏 秋		
総合科目	世界史	2		○※			選択必修 8単位以上	
	日本史	2		○※				
	法律の基礎	2		○※				
	ファイナンシャル・プランニング	2		○※				
	簿記会計入門(簿記4級レベル)	2		○※				
	色彩学入門	2		○※				
	デザイン基礎A	2		○※				
	デザイン基礎B	2		○※				
	心理学	2		○※				
	コンピュータ言語入門	2		○※				
	AI・データサイエンス概論	2		○※				
	特別教養講座A	1						
特別教養講座B	1							
外国語科目	EAP Basic1	4	●				必修 8単位	
	EAP Basic2	4		●				
	EAP Basic (next) 1	4			○※			
	EAP Basic (next) 2	4			○※			
	EB Communication Strategies	2	○					
	EB Effective Presentation Skills	2	○					
	EI Enhanced Speaking Skills	2		○				
	EI Enhanced Writing Skills	2		○				
	EA Advanced Speaking Skills	2		○				
EA Advanced Writing Skills	2			○				
基礎科目	基礎ゼミ1	2		●			必修 16単位	
	基礎ゼミ2	2			●			
	日本語リテラシーA	2	●					
	日本語リテラシーB	2		●				
	数学(数的処理・判断推理)	2	●					
	情報リテラシー	2	●					
	情報科学入門	2		●				
	情報と社会	2		●				
モデル入門科目	コンテンツデザイン入門	2		○			選択必修 2単位以上	
ビジネススキル科目	プレゼンテーション	2			○※		選択 10単位以上	
	データ分析と統計1	2			○※			
	データ分析と統計2	2			○※			
	ロジカルシンキング	2			○※			
	リーダーシップスキル	2			○※			
	ファシリテーション	2			○※			
	オフィスアプリケーションA (Word)	2			○※			
	オフィスアプリケーションB (Excel)	2			○※			
	オフィスアプリケーションC (Power Point)	2			○※			
	ビジネスコミュニケーションA	2			○※			
	ビジネスコミュニケーションB	2			○※			
	ロジカルライティング	2			○※			
情報倫理・情報セキュリティ	2			○※				
専門科目	シ現系代スビ	マーケティングA	2			○	選択 24単位以上 開講年次、学期が変更されることがありますので、時間割表で確認してください。	
		マーケティングB	2			○		
	コンテンツデザイン系	知的財産権	2					○
		イラストレーション1	2			○		
		イラストレーション2	2			○		
		グラフィックデザインA	2			○		
		グラフィックデザインB	2			○		
		DTP1	2			○		
		DTP2	2			○		
		CG概論	2			○		
		画像処理概論	2			○		
		3次元表現1	2			○		
		3次元表現2	2			○		
		アニメーション基礎	4			○		
		アニメと映像A	2			○		
		アニメと映像B	2			○		
		映像編集・制作1	2			○		
		映像編集・制作2	2			○		
		映像サウンド表現A	2			○		
		映像サウンド表現B	2			○		
色彩学概論	2			○				
キャラクターデザイン	2			○				
ユニバーサルデザイン	2			○				
アニメーション史	2			○				
デザイン史	2			○				
コンテンツデザイン特論A	2			○				
コンテンツデザイン特論B	2			○				
コンテンツデザイン特論C	2			○				
専門応用科目	専門演習ゼミ1	4				●	必修 8単位	
	専門演習ゼミ2	4				●		
	卒業研究	4				○		
海外留学関連科目	Study Abroad Preparation	2		○			自由科目の単位となります。	
	海外留学/Global Academic Study Programme	12			○			
	現地報告演習	2			○			
キャリア支援科目	キャリアデザイン基礎A	2		●			必修 12単位	
	キャリアデザイン基礎B	2			●			
	キャリア実践演習A	2			●			
	キャリア実践演習B	2			●			
	キャリア実践演習C	2			●			
	キャリア実践演習D	2			●			

カリキュラムツリー 公務員モデル



授業科目表 公務員モデル

科目区分	授業科目の名称	単位数	開講年次・学期、必修・選択科目の区分								備考 [*印の授業科目の開講学期は、 時間割表で確認してください。]	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			春	夏・秋	春	夏・秋	春	夏・秋	春	夏・秋		
総合科目	世界史	2		○※								選択必修 8単位以上
	日本史	2		○※								
	法律の基礎	2		○※								
	ファイナンシャル・プランニング	2		○※								
	簿記会計入門(簿記4級レベル)	2		○※								
	色彩学入門	2		○※								
	デザイン基礎A	2		○※								
	デザイン基礎B	2		○※								
	心理学	2		○※								
	コンピュータ言語入門	2		○※								
	A1・データサイエンス概論	2		○※								
特別教養講座A	1											
特別教養講座B	1											
外国語科目	EAP Basic1	4	●									必修 8単位
	EAP Basic2	4		●								
	EAP Basic (next) 1	4				○※						
	EAP Basic (next) 2	4				○※						
	EB Communication Strategies	2	○									
	EB Effective Presentation Skills	2	○									
	EI Enhanced Speaking Skills	2		○								
	EI Enhanced Writing Skills	2		○								
	EA Advanced Speaking Skills	2			○							
	EA Advanced Writing Skills	2				○						
基礎科目	基礎ゼミ1	2		●								必修 16単位
	基礎ゼミ2	2			●							
	日本語リテラシーA	2		●								
	日本語リテラシーB	2			●							
	数学(数的処理・判断推理)	2		●								
	情報リテラシー	2		●								
	情報科学入門	2			●							
情報と社会	2			●								
モデル入門科目	公共サービス入門	2		○								選択必修 2単位以上
ビジネススキル科目	プレゼンテーション	2				○※						選択 10単位以上
	データ分析と統計1	2				○※						
	データ分析と統計2	2				○※						
	ロジカルシンキング	2				○※						
	リーダーシップスキル	2				○※						
	ファシリテーション	2				○※						
	オフィスアプリケーションA (Word)	2				○※						
	オフィスアプリケーションB (Excel)	2				○※						
	オフィスアプリケーションC (Power Point)	2				○※						
	ビジネスコミュニケーションA	2				○※						
	ビジネスコミュニケーションB	2				○※						
ロジカルライティング	2				○※							
情報倫理・情報セキュリティ	2				○※							
専門科目	現代ビジネス系	経済学概論	2			○						選択 24単位以上
		国際関係論A	2			○						
	グローバルスタディ系	国際関係論B	2				○					
		法学概論	2			○						
	民事法	2				○						
	多文化共生論	2					○					
	地域連携概論	2						○				
	公務員特別演習A	2					○					
	公務員特別演習B	2						○				
	公務員特別演習C	2							○			
	行政教養(人文科学・社会科学)	2			○							
	行政教養(自然科学・数学)	2				○						
	政策事情特論	2						○				
	資料解釈	2				○						
	行政研究	2					○					
	行政教養(英語)	2					○					
	時事問題・国際関係	2				○						
	数的処理1	2					○					
	数的処理2	2						○				
	文章理解応用	2					○					
数的処理応用1	2						○					
数的処理応用2	2							○				
専門応用科目	専門演習ゼミ1	4						●				必修 8単位
	専門演習ゼミ2	4								●		
	卒業研究	4									○	
海外留学関連科目	Study Abroad Preparation	2			○							自由科目の単位となります。
	海外留学/Global Academic Study Programme	12				○						
	現地報告演習	2				○						
キャリア支援科目	キャリアデザイン基礎A	2		●								必修 12単位
	キャリアデザイン基礎B	2			●							
	キャリア実践演習A	2					●					
	キャリア実践演習B	2						●				
	キャリア実践演習C	2							●			
キャリア実践演習D	2								●			

開講年次、学期が変更されることがありますので、時間割表で確認してください。

★ 卒 業

1. 卒業要件

卒業要件とは、卒業するために必要とする条件を定めたものです。

本学では、次の要件を満たしている学生に対して卒業が認められます。

- ① 学部に4年以上在学し、定められた科目を含む各科目群での所定の単位数及び総単位数124単位以上の修得
- ② 入学時からの累計GPAが1.5以上

学 位

本学を卒業した学生には、次の学位が授与されます。

学士（経営情報）

卒業に必要な修得単位

学生は、以下の表で定める科目区分に従い、履修モデルに定める卒業に必要な単位を修得しなければならない。

■日本文化・ビジネスモデル以外

科 目 区 分	必 修	選 択	卒業要件 単位数	備 考
総 合 科 目		8	8	
外 国 語 科 目	8		8	
基 礎 科 目	16		16	
モデル入門科目		2	2	(注1)
ビジネススキル科目		10	10	
専 門 科 目		24	24	(注2)
専 門 応 用 科 目	8		8	
キャリア支援科目	12		12	
自 由 科 目		36	36	(注3)
総 計	44	80	124	

■日本文化・ビジネスモデル

科 目 区 分	必 修	選 択	卒業要件 単位数	備 考
総 合 科 目		8	8	
日 本 語 科 目	16		16	(注4)
基 礎 科 目	16		16	
モデル入門科目		2	2	(注1)
ビジネススキル科目		10	10	
専 門 科 目		24	24	(注2)
専 門 応 用 科 目	8		8	
キャリア支援科目	12		12	
自 由 科 目		28	28	(注3)
総 計	52	72	124	

上記の表にある注1から注4については、以下のとおりです。

(注1) 選択した履修モデルの指定する科目を履修すること

(注2) 選択した履修モデルの指定する専門科目から24単位を修得すること

○日本国際学園大学学則

第1章 総則

(目的)

第1条 日本国際学園大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律26号）の趣旨に則り、知識の啓発、徳性の涵養、技術の練磨の建学の精神を具現する高度の知識、技能を教授研究し、もってわが国文化の高揚発達に貢献するとともに、国際性豊かな人間を育成することを目的とする。

2 本学が設置する学部及び学科は、情報化とグローバル化が急速かつ複雑に進む現代社会の発展に貢献するため、知、徳、技のバランスを重視する建学精神のもと広い教養を身につけたうえで、生活を豊かにする情報のシステム、コンテンツ、メディア及び経営経済に関する資質、さらに、それらを効果的に活用する能力を修得し、自立できる人材の育成を目的とする。

(自己点検評価)

第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

第2章 学部、学科、学生定員及び修業年限

(学部、学科)

第3条 本学に次の学部、学科を置く。

経営情報学部

ビジネスデザイン学科

(学生定員)

第4条 本学の学部、学科の入学定員及び収容定員は次表のとおりとする。

経営情報学部

学 科	入学定員	収容定員
ビジネスデザイン学科	200人	800人
計	200人	800人

(修業年限及び在学年限)

第5条 本学の修業年限は4年とし、在学年限は、8年とする。ただし、第22条及び第23条の規定により入学した者の在学年限は、在学すべき年数の2倍に相当する年数とする。

2 学生は、前項に規定する在学年限を超えて在学することはできない。

3 長期履修学生（社会人）として入学した者の修業年限は別に定める。

4 長期履修学生（社会人）として2年次以上の相当年次に編入学した者の修業年限は別に定める。

第3章 職員組織

(職員組織)

第6条 本学に学長、副学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及びその他必要な職員を置く。

2 前項に定める職員のほか、本学に学長補佐を置くことができる。

(学長)

第7条 学長は、校務を掌り、所属職員を統督する。

(副学長)

第7条の2 副学長は、学長を補佐し、学長の命を受けて校務をつかさどる。

(学長補佐)

第7条の3 学長補佐は、学長の職務を助ける。

(学部長)

第8条 学部長は、学部に関する事項を掌理する。

第4章 教授会

(教授会)

第9条 本学学部には教授会を置く。

第10条 教授会は、学長、学部長、専任の教授をもって組織する。

2 前項の規定にかかわらず学長が必要と認めるときは、教授会にその他の職員を出席させることができる。

3 教授会の運営に関する事項は、別に定める。

第11条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして、学長が定めるもの。

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長、副学長及び学部長が掌る教育研究に関する次の事項について審議し、並びに学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(1) 教員の採用、昇任その他身分に関する事項

(2) 学術研究及び教育計画に関する事項

(3) 学生の賞罰に関する事項

(4) 学生の厚生補導に関する事項

(5) その他教育研究に関する事項

第5章 学年、学期及び休業日

(学年)

第12条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第13条 学年を分けて次の3期とする。

春学期 4月1日から7月31日まで

夏学期 8月1日から9月30日まで

秋学期 10月1日から3月31日まで

(休業日)

第14条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 土曜日、日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3) 創立記念日

(4) 夏季休業 8月20日から9月30日まで

(5) 冬季休業 12月26日から翌年1月7日まで

(6) 春季休業 3月1日から3月31日まで

2 必要がある場合は、学長は、前項の休業日を臨時に変更することができる。

3 第1項に規定するもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第6章 入学、編入学、転入学、休学、退学等

(入学の時期)

第15条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第16条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣が指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程に修了した者
- (5) 文部科学大臣が指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規定による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (7) 本学において個別の入学審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で18歳に達した者

(入学志願)

第17条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。

2 提出の時期、方法、提出すべき書類等については、別に定める。

(入学者の選考)

第18条 前条に規定する入学志願者について別に定めるところにより、選考を行う。

(入学の手続)

第19条 前条の選考の結果に基づき、合格の通知を受けた者は、指定の期日までに本学所定の書類を提出するとともに所定の入学時納入金を納入しなければならない。

(入学の許可)

第20条 前条に規定する入学手続きを完了した者について、学長は入学を許可する。

2 入学を許可された者は、保証人連署の上、所定の誓約書を提出しなければならない。

(準用規定)

第21条 前4条の規定は、編入学、転入学及び再入学の場合に準用する。

(編入学、転入学)

第22条 次の各号の一に該当するもので、本学への入学を志願するものがあるときは、欠員のある場合に限り、教授会の意見を聞いて学長が2年次以上の相当年次に編入学及び転入学を許可することができる。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 大学に1年以上在学したもので、編入学及び転入学を志願する者
- (4) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であること。その他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（大学入学資格を有する者に限る。）
- (5) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者

2 編入学及び転入学試験に関する事項は、別に定める。

(再入学)

第23条 本学を中途退学した者又は除籍された者が退学若しくは除籍（第30条第1項1号の規定によ

る除籍で学納金を完納した者に限り）後2年以内に再入学を願い出たときは、教授会の意見を聴いて学長が、相当年次に入学を許可することができる。

（編入学、転入学及び再入学者の既修得単位の取扱）

第24条 前2条の規定により入学を許可された者の既に習得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴いて学長が決定する。

（休学）

第25条 疾病その他やむを得ない理由により引き続き、2ヶ月以上修学することができない者は、学長の許可を受けて休学することができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者に対しては、学長は、休学を命ずることができる。

3 休学の期間は、引き続き1年を超えることができない。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。

4 休学期間は、通算して2年を超えることができない。

5 休学期間は、第5条第1項に規定する在学年限に算入しない。

（復学）

第26条 休学期間において、休学の理由が消滅し、復学しようとする者は、学長の許可を受けて復学することができる。

（退学）

第27条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

2 成業の見込みがないと認められる者にたいしては、学長は退学を命ずることができる。

（転学）

第28条 他大学へ転学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

（留学）

第29条 本学が教育上有益と認めるときは、別に定めるところにより学生が外国の大学又は短期大学（以下「外国の大学等」という。）に留学することを認めることができる。

2 前項の規定により留学した期間は、第40条の在学年限に算入することができる。

（除籍）

第30条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

(1) 授業料及び施設設備資金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

(2) 第5条に規定する在学年限を超えた者

(3) 第25条第4項に規定する休学期間を超えてなお修学できない者

(4) 死亡又は長期間にわたり行方不明の者

第7章 教育課程及び履修方法

（授業科目の区分）

第31条 授業科目は、総合科目、外国語科目、基礎科目、モデル入門科目、ビジネススキル科目、専門科目、専門応用科目、キャリア支援科目、日本語科目、海外留学関連科目及び自由科目に区分し、その授業科目の内容及びその単位数は、別表のとおりとする。

2 資格取得に関する事項は別に定める。

（単位の修得）

第32条 学生は、別表に定める科目区分に従い、定められた単位を修得しなければならない。

（1年間の授業時間）

第33条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

（授業の方法）

第33条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第32条の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、前項の授業の方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

(単位の計算方法)

第34条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間の講義又は演習をもって1単位とする。

ただし、別に定める科目については、30時間の講義又は演習をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間の実験、実習又は実技をもって1単位とする。

(単位の授与)

第35条 授業科目を履修し、その試験に合格した者は、所定の単位を与える。

(試験の時期及びその方法)

第36条 試験は、学期末又は学年末に履修した授業科目について筆記、口述、論文等の方法により行う。

(試験の成績等)

第37条 試験の成績の評価は、S、A、B、C、認定及びFをもって表し、S、A、B、C、及び認定を合格とする。

2 削除

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第38条 本学が教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学（以下「他大学等」という。）との協議に基づき学生に当該大学等の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 前2項の規定は、第29条の規定により外国の大学等に留学する場合に準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第38条の2 本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし単位を与えることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、前条第2項及び第3項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第39条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第38条第1項及び第3項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第8章 卒業及び学位

(卒業)

第40条 本学に4年以上在学し、第32条に基づき124単位を修得し、かつ別表に定める条件を満たした者については、教授会の審議を経て、学長が卒業を認定する。

第40条の2 第40条の特例として、第40条の要件を満たした者であっても、在学期間の延長を希望する者については、願い出により、学長は卒業の認定を延期することができる。

2 前項の卒業延期に関する事項は、別に定める。

(学士の学位)

第41条 学長は、前条の規定により卒業を認定した者に対して、学士の学位を授与する。

2 前項の学位には、学科区分に従い、次のとおり専攻分野の名称を付記するものとする。

ビジネスデザイン学科 学士（経営情報）

第9章 入学検定料、入学金、授業料、施設設備資金及び実習料

(納入金の額)

第42条 入学検定料、入学金並びに授業料、施設設備資金及び実習料（以下「授業料等」という。）の納入金は、次のとおりとする。ただし、学校法人東京家政学院が設置する大学、短期大学及び高等学校の卒業生については、入学金を半額とする。

- | | |
|----------------|------|
| (1) 入学検定料 | 3万円 |
| (2) 入学金 | 25万円 |
| (3) 授業料（年額） | 80万円 |
| (4) 施設設備資金（年額） | 35万円 |
| (5) 実習料（年額） | 3万円 |

2 前項第3号の授業料（年額）は、2年生以上の在籍学生に適用し、1年生については71万円とする。

3 長期履修学生（社会人）の授業料等は、前項第3号、第4号及び第5号について、修業年限分の総額を、登録修業年数で除した額を年額とし、春学期と夏学期、秋学期に分けて納入する。

4 私費外国人留学生及びそれに準ずる学生には、授業料について、別に定めるところにより、その一部を減免する。

5 学校法人日本国際学園の設置する学校に在学している学生及び生徒の姉妹兄弟が、本学に入学する場合の入学金は、入学金の2分の1の額とする。

第42条の2 長期履修学生（社会人）の授業料等は、前条第1項第3号、第4号及び第5号について、修業年限分の総額を、登録修業年数で除した額を年額とし、前期・後期に分けて納入する。

2 登録修業年数より早く卒業する場合の授業料等は、卒業年次に登録修業年数の総額の残額を納入する。

3 登録修業年数を超える場合の授業料等は、前条の規定する額を納入する。

(5年以上在学する学生の授業料の取扱い)

第42条の3 第42条の規定にかかわらず、5年以上在学する学生の授業料の取扱いは、別に定める。

(授業料等の納入期)

第43条 授業料等は、学期の始まる前の次の指定した期日までに納入しなければならない。ただし、入学年度の春学期と夏学期分の授業料等については、入学手続き時の指定の日までに納入するものとする。

春学期と夏学期分 3月31日

秋学期分 9月20日

なお、納入期日が、国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日、土曜日・

日曜日、その他の休日に当たるときは、これらの日の前日とする。

(退学者等の授業料等)

第44条 学期の途中で退学及び転学した者又は除籍（第30条第1項第1号の規定による除籍は除く）された者も、その期の授業料等は徴収する。

2 停学期間中の授業料等は、徴収する。

(休学者の授業料等)

第45条 休学を許可された者及び命ぜられた者については、休学期間中の授業料、実習料は全額、施設設備資金は半額を免除する。

(既納の納入金)

第46条 既納の入学検定料、入学金、授業料等は、返戻しない。

(授業料等未納者の受験資格)

第47条 授業料等を納入しない者は、試験を受けることができない。

第10章 科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生

(科目等履修生)

第48条 学長は、本学において、特定の授業科目の履修を志願する者がいるときは、本学の教育研究に支障がない場合に限り、選考の上科目等履修生として入学を許可することができる。

2 科目等履修生に関する必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第48条の2 他大学等の学生で本学において、特定の授業科目を履修することを志願する者がいるときは、当該他大学等との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することがある。

2 特別聴講学生に関して必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第49条 学長は、外国人で大学において教育を受ける目的で入国し、本学に入学を志願する者がいるときは、特別に選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関する事項は、別に定める。

(諸規則の準用)

第50条 科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生に対しては、別段の定めのあるものを除くほか、本学の学生に関する規則を準用する。

第11章 賞罰

(表彰)

第51条 学生で学業、人物ともに優れた学生として表彰に値する行為があった者は、学長はこれを表彰することができる。

(懲戒)

第52条 本学の教育の趣旨にそむき、又は本学の規則に違反し、学生としての本分に反する行為をした者は、学長はこれを懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とし、詳細は別に定める。

(命ずる退学)

第53条 前条に規定する退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められるもの

(2) 正当の理由がなくて出席常でない者

(3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第12章 附属図書館

(附属図書館)

第54条 本学に附属図書館を置く。

2 附属図書館に関する事項は、別に定める。

第13章 公開講座

(公開講座)

第55条 本学の教育研究活動の成果を広く地域社会に公開し、社会人の教養を高め、文化の向上を資するため、本学は公開講座を開設することができる。

2 公開講座に関する事項は、別に定める。

附 則

1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。

2 筑波学院大学国際学部及び東京家政学院筑波女子大学短期大学部の1年次入学に係る学生募集は、平成17年度から停止する。本則第4条の規定にかかわらず、国際学部3年次編入学に係る学生募集は、平成19年度から停止する。

3 本則第4条に規定する情報コミュニケーション学部及び国際学部の収容定員は、同条の規定にかかわらず、平成17年度から平成19年度までは、次表のとおりとする。

国際学部

学 科	平成17年度	平成18年度	平成19年度
国際社会学科	380	260	130
比較文化学科	260	180	90
計	640	440	220

情報コミュニケーション学部

学 科	平成17年度	平成18年度	平成19年度
情報メディア学科	125	250	375
国際交流学科	125	250	375
計	250	500	750

4 東京家政学院筑波女子大学短期大学部学則（平成2年4月1日制定）は、当該短期大学部に在学する学生が、在学しなくなる日までの間は、存続する。

5 東京家政学院筑波女子大学学則（平成8年4月1日制定）は、廃止する。

附 則

1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。

2 本則第32条の規則は、平成17年度入学生から適用する。

附 則

1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。

2 筑波学院大学国際学部の在籍学生の取扱いについては、なお従前の例による。

3 筑波学院大学国際学部の在籍学生の卒業を待って、国際学部は廃止する。

附 則

1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成22年2月19日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。ただし、情報コミュニケーション学部情報メディア学科及び国際交流学科は、改正後の学則第3条に掲げる規定にかかわらず在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 2 情報コミュニケーション学部情報メディア学科及び国際交流学科の1年次入学に係る学生募集は、平成22年度から停止する。
- 3 改正後の学則第4条に掲げる表の収容定員は、同条の規定にかかわらず、情報コミュニケーション学部情報メディア学科・国際交流学科の平成22年度から平成24年度までの収容定員は、次のとおりとする。

情報コミュニケーション学部

学 科	平成22年度	平成23年度	平成24年度
情報メディア学科	375	250	125
国際交流学科	375	250	125
計	750	500	250

経営情報学部

学 科	平成22年度	平成23年度	平成24年度
経営情報学科	200	400	600
計	200	400	600

- 4 改正後の学則第32条に掲げる規定にかかわらず情報コミュニケーション学部情報メディア学科・国際交流学科は次表のとおりとする。

情報コミュニケーション学部

	科 目 区 分	必 修	選 択	自 由	計
1	総 合 科 目 群	14単位	20単位		34単位
	総合教育科目		12単位		
	情報基礎科目	6単位			
	情報理解科目		4単位		
	地域理解科目		2単位		
	文化理解科目		2単位		
2	専 門 科 目 群	26単位	48単位		74単位
	入門科目	14単位			
	基礎科目		40単位		
	発展科目		8単位		
	実践科目	6単位			
	卒業研究	6単位			
3	自 由 科 目 群			18単位以上	18単位以上
	総合科目群				
	専門科目群				
	進路支援科目				
	その他認定科目				
	日本語教員養成科目 学芸員資格科目				

計	40単位	68単位	18単位以上	126単位以上
---	------	------	--------	---------

※ 国際交流学科における、専門科目群の基礎科目40単位の細目は、次のとおりとする。

外国語科目	8単位
情報科学科目	4単位
基礎科目	28単位

※ 教職に関する科目は別に定め、卒業の要件（126単位）に含まれない。

- 5 改正後の第41条の2にかかわらず情報コミュニケーション学部情報メディア学科・国際交流学科の学士の学位は次のとおりとする。

情報メディア学科	学士（情報メディア）
国際交流学科	学士（国際交流）

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成26年4月1日から施行する。

ただし、第32条の科目区分については、平成25年度以前入学生は従前の例による。

附 則

この学則は、平成26年5月13日から施行する。

附 則

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。ただし、経営情報学部経営情報学科は、改正後の学則第3条に掲げる規定にかかわらず在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

- 2 経営情報学部経営情報学科の1年次入学に係る学生募集は、平成28年度から停止する。

附 則

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。
 2 第42条の規定は、平成30年度第1学年入学者から適用する。
 3 第45条の規定は、平成30年度在学学生から適用する。

附 則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。
 2 令和元年度に在学する者の第43条の適用は、従前の期限にかかわらず令和2年度の前期分については令和2年3月31日を期限とする。
 3 平成30年度以前に入学した者に対する第31条、第32条の適用はなお従前の例による。
 4 平成31年度に入学した者に対する第32条は一部読み替え、「入門科目群 必修22単位」、「自由科目 選択10単位」とし、卒業要件単位数124単位の内訳は必修32単位、選択92単位とする。

科目区分		必修	選択	卒業要件 単位数	備考
総合教養科目群	教養科目		8	8	

総合教養科目群	外国語科目		4	4			
入門科目群		22		22			
専門基礎科目群	共通科目		60	60	希望のコース科目から 16単位以上		
専門基礎科目群	コース科目					16	希望のコース科目にか かわらず6単位以上
専門発展科目群						6	
卒業研究（専門発展科目群）		4		4			
進路支援科目群	キャリア形成	6	10	16			
進路支援科目群	実践科目						
自由科目（どの科目群からとっても良い単位）			10	10			
計		32	92	124			

- 5 編入学、転入学及び再入学者は、入学する相当年次の学生に適用させている第31条、第32条を適用する。

附 則

この学則は、令和2年5月29日から施行し、改定後の規定は令和2年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、令和3年6月1日から施行する。

附 則

この学則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、令和7年4月1日から施行する。

ただし、令和7年度以前の編入学生及び令和5年度以前の入学生に対する第31条、第32条及び第40条の適用はなお従前の例による。

- 2 令和6年度入学生について、令和6（2024）年度に下表の旧授業科目の単位を修得したものは、新授業科目の単位を修得したものとみなす。

新授業科目名	単位数	旧授業科目名	単位数
ファイナンシャル・プランニング	2	経済の基礎	2
簿記会計入門	2	会計の基礎	2
ロジカルライティング	2	論理的思考と文章作成	2
EAP Basic 1	4	EB Reading and Writing	4

EAP Basic 2	4	EB Listening and Speaking	4
情報リテラシー	2	情報基礎 A	2
情報科学入門	2	情報基礎 B	2
情報倫理・情報セキュリティ	2	情報倫理	2
現代ビジネス入門	2	経営学入門 (現代ビジネスモデル)	2
日本文化・ビジネス入門	2	経営学入門 (日本文化・ビジネスモデル)	2
グローバルスタディ入門	2	人文科学入門 (国際教養モデル)	2
グローバルスタディ入門	2	人文科学入門 (英語コミュニケーションモデル)	2
国際エアライン入門	2	人文科学入門 (国際エアラインモデル)	2
国際ホテル入門	2	人文科学入門 (国際ホテルモデル)	2
AI・情報入門	2	情報・デザイン入門 A	2
コンテンツデザイン入門	2	情報・デザイン入門 B	2
公共サービス入門	2	社会科学入門	2
キャリアデザイン基礎 A	2	キャリアデザイン A	2
日本語 A1	4	留学生日本語 A1	2
日本語 A2	4	留学生日本語 A2	2
日本語 B1	4	留学生日本語 B1	2
日本語 B2	4	留学生日本語 B2	2

- 3 令和 6 年度入学生及び令和 6 年度入学生の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者は、別表で定められた科目に加え下表の科目を授業科目に加える。

科目区分	科目名	選択・必修	単位数
総合科目	現代の思想・文化の考え方・地理学・社会と科学技術・環境科学・地球と資源・日本国憲法・政治の基礎・健康論・社会学・LA Humanities A・LA Humanities B・LA Humanities C・LA Social sciences A・LA Social sciences B・LA Social sciences C・LA Natural sciences A・LA Natural sciences B・LA Natural sciences C	選択	2
外国語科目	EB Integrating English Grammar into Communication・EB Reading, Writing and Critical Thinking・EI Enhanced Reading Skills	選択	2
基礎科目	多文化協働演習	選択	2

別表 経営情報学部ビジネスデザイン学科

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考
		必修	選択	自由	
総合科目	世界史		2		
	日本史		2		
	法律の基礎		2		
	ファイナンシャル・プランニング		2		
	簿記会計入門		2		
	心理学		2		
	コンピュータ言語入門		2		
	AI・データサイエンス概論		2		
	色彩学入門		2		
	デザイン基礎A		2		
	デザイン基礎B		2		
	特別教養講座A		1		
	特別教養講座B		1		
外国語科目	EAP Basic 1	4			
	EAP Basic 2	4			
	EAP Basic (next) 1		4		
	EAP Basic (next) 2		4		
	EB Communication Strategies		2		
	EB Effective Presentation Skills		2		
	EI Enhanced Speaking Skills		2		
	EI Enhanced Writing Skills		2		
	EA Advanced Speaking Skills		2		
	EA Advanced Writing Skills		2		
日本語科目	日本語A 1	4			
	日本語B 1	4			
	日本語A 2	4			
	日本語B 2	4			
	日本語演習A		4		
	日本語演習B		4		
	日本語演習C		2		
	日本語演習D		2		
基礎科目	基礎ゼミ1	2			
	基礎ゼミ2	2			
	日本語リテラシーA	2			
	日本語リテラシーB	2			
	数学	2			
	情報リテラシー	2			
	情報科学入門	2			
	情報と社会	2			

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考	
		必修	選択	自由		
モデル入門科目	現代ビジネス入門		2			
	グローバルスタディ入門		2			
	国際エアライン入門		2			
	国際ホテル入門		2			
	AI・情報入門		2			
	コンテンツデザイン入門		2			
	公共サービス入門		2			
	日本文化・ビジネス入門		2			
ビジネススキル科目	プレゼンテーション		2			
	データ分析と統計 1		2			
	データ分析と統計 2		2			
	ロジカルシンキング		2			
	リーダーシップスキル		2			
	ファシリテーション		2			
	オフィスアプリケーションA (Word)		2			
	オフィスアプリケーションB (Excel)		2			
	オフィスアプリケーションC (PowerPoint)		2			
	ビジネスコミュニケーションA		2			
	ビジネスコミュニケーションB		2			
ロジカルライティング		2				
情報倫理・情報セキュリティ		2				
専門科目	現代ビジネス系	経営戦略		2		
		経営分析		2		
		企業論		2		
		マーケティングA		2		
		マーケティングB		2		
		簿記会計 1		4		
		簿記会計 2		4		
		人的資源管理論		2		
		ファイナンス概論		2		
		国際経営論		2		
		経済学概論		2		
		中小企業論 (起業論)		2		
		ビジネスプランニング		2		
		リスクマネジメント		2		
		組織論		2		
		ビジネスマネジメント特論 A		2		
		ビジネスマネジメント特論 B		2		
		ビジネスマネジメント特論 C		2		
		会社法		2		
		知的財産権		2		
ビジネス数理 (データサイエンス)		2				

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専門科目	グローバルスタディ系	English through Movies		2	
		English for Tourism		2	
		Discussion Skills A		2	
		Discussion Skills B		2	
		Basic Skills for TOEIC A (TOEIC初級)		2	
		Basic Skills for TOEIC B (TOEIC初級)		2	
		English for Academic Purposes		2	
		国際コミュニケーションの基礎 1		2	
		国際コミュニケーションの基礎 2		2	
		異文化理解 A		2	
		異文化理解 B		2	
		グローバルスタディ特論A		2	
		グローバルスタディ特論B		2	
		グローバルスタディ特論C		2	
		Intermediate Skills for TOEIC A (TOEIC中級)		2	
		Intermediate Skills for TOEIC B (TOEIC中級)		2	
		Advanced Skills for TOEIC A (TOEIC上級)		2	
		Advanced Skills for TOEIC B (TOEIC上級)		2	
		国際関係論A		2	
		国際関係論B		2	
	Study Abroad Preparation		2		
	海外留学		12		
	現地報告演習		2		
	国際エアライン・ホテル系	接客英語		2	
		接客英会話		2	
		航空ビジネス		2	
		エアライン業界研究		2	
		エアラインキャリア実践演習A		2	
エアラインキャリア実践演習B			2		
エアライン特論A			2		
エアライン特論B			2		
エアライン特論C			2		
ホテル総論			2		
ホテル業界研究			2		
ホテルサービス実務A			2		
ホテルサービス実務B		2			
ホテル特論A		2			
ホテル特論B		2			
ホテル特論C		2			

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専門科目	コンテンツデザイン系	イラストレーション1		2	
		イラストレーション2		2	
		グラフィックデザインA		2	
		グラフィックデザインB		2	
		DTP1		2	
		DTP2		2	
		CG概論		2	
		画像処理概論		2	
		3次元表現1		2	
		3次元表現2		2	
		アニメーション基礎		4	
		アニメと映像A		2	
		アニメと映像B		2	
		映像編集・制作1		2	
		映像編集・制作2		2	
		映像サウンド表現A		2	
		映像サウンド表現B		2	
		色彩学概論		2	
		キャラクターデザイン		2	
		ユニバーサルデザイン		2	
	アニメーション史		2		
	デザイン史		2		
	コンテンツデザイン特論A		2		
	コンテンツデザイン特論B		2		
	コンテンツデザイン特論C		2		
	AI・情報系	プログラミングA		4	
		プログラミングB		4	
		プログラミングC		2	
		プログラミングD		2	
		アルゴリズム		2	
		データベース		2	
		Webデザイン		2	
情報デザイン			2		
情報システム			2		
情報数学			2		
情報活用と危機管理			2		
ネットワーク活用			2		
IoT技術		2			
AIの活用		2			
AI・情報特論A		2			
AI・情報特論B		2			
AI・情報特論C		2			
コンピュータシステムA		2			
コンピュータシステムB		2			

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専 門 科 目	法学概論		2		
	民事法		2		
	多文化共生論		2		
	地域連携概論		2		
	公務員特別演習A		2		
	公務員特別演習B		2		
	公務員特別演習C		2		
	行政教養（人文科学・社会科学）		2		
	行政教養（自然科学・数学）		2		
	政策事情特論		2		
	資料解釈		2		
	行政研究		2		
	行政教養（英語）		2		
	時事問題・国際関係		2		
	数的処理 1		2		
	数的処理 2		2		
文章理解応用		2			
数的処理応用 1		2			
数的処理応用 2		2			
用 専 門 科 目 応	専門演習ゼミ 1	4			
	専門演習ゼミ 2	4			
	卒業研究		4		
キ ャ リ ア 支 援 科 目	キャリアデザイン基礎A	2			
	キャリアデザイン基礎B	2			
	キャリア実践演習A	2			
	キャリア実践演習B	2			
	キャリア実践演習C	2			
	キャリア実践演習D	2			
海 外 留 学 関 連 科 目	Study Abroad Preparation		2		
	海外留学		12		
	現地報告演習		2		

科目区分	必修	選択	卒業要件 単位数	備 考
総合科目		8	8	
外国語科目	8		8	※日本文化・ビジネスモデルの学生は、「日本語科目 16単位」を修得すること
日本語科目	16		16	
基礎科目	16		16	
モデル入門科目		2	2	※選択2単位は、選択した履修モデルの指定する科目を履修すること
ビジネススキル科目		10	10	
専門科目		24	24	※選択した履修モデル系が指定する専門科目から24単位を修得すること
専門応用科目	8		8	
キャリア支援科目	12		12	
自由科目 (日本文化・ビジネスモデル以外)	—	36	36	※必修及び選択で指定された単位数を超えて修得した単位及び他大学等で修得した単位を含む
自由科目 (日本文化・ビジネスモデル)	—	28	28	※必修及び選択で指定された単位数を超えて修得した単位及び他大学等で修得した単位を含む
総計 (日本文化・ビジネスモデル以外)	44	80	124	
総計 (日本文化・ビジネスモデル)	52	72	124	

日本国際学園大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進規程

(目的)

第1条 日本国際学園大学（以下「本学」という。）では、データやAIを利活用する基礎的な素養の修得、課題解決のための基礎能力、専門分野への応用能力を身に付けるための数理・データサイエンス・AI教育プログラム（以下「教育プログラム」という。）を設置し、数理・データサイエンス・AIの基礎的素養及び応用能力を持つ人材を育成する。

(委員会)

第2条 前条の目的を達成するため、本学にデータサイエンス教育プログラム委員会（以下「委員会」という。）を置き、教務委員会と連携して、次の各号に掲げる役割を担うものとする。

- (1) 教育プログラムの立案、実施に関する事項
- (2) 教育プログラムの普及に関する事項
- (3) 教育プログラムの年次自己点検・評価と改善に関する事項
- (4) 教育プログラムの情報公開に関する事項
- (5) その他教育プログラムに関する重要事項

2 委員会は、以下の委員をもって組織する。

- (1) 学部長
- (2) 教務委員長
- (3) AI・情報系教員
- (4) その他、委員長が必要と認めた者

(委員長)

第3条 委員長は、委員の互選により選出する。

(自己点検責任者)

第4条 委員会は、教育プログラムの自己点検・評価を実施するため、委員長とは別に自己点検責任者を互選により選出する。

(対象の授業科目、単位数及び修了要件)

第5条 教育プログラムの対象となる授業科目、単位数及び修了要件は、委員会が別に定め、教授会の上を承を得て、学長が決定する。

(修了認定)

第6条 教育プログラムに該当する授業科目の可否は教授会が判定し、学長が認定する。

2 教授会の判定結果に基づき、委員会が教育プログラムの修了を確認し、学長が認定を行う。

(修了証の交付)

第7条 学長は、委員会の修了認定に基づき、教育プログラムを修了した学生に修了証を交付する。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、委員会の議を経て教授会が承認し、学長が決定する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

日本国際学園大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進規程

(目的)

第1条 日本国際学園大学（以下「本学」という。）では、データやAIを利活用する基礎的な素養の修得、課題解決のための基礎能力、専門分野への応用能力を身に付けるための数理・データサイエンス・AI教育プログラム（以下「教育プログラム」という。）を設置し、数理・データサイエンス・AIの基礎的素養及び応用能力を持つ人材を育成する。

(委員会)

第2条 前条の目的を達成するため、本学にデータサイエンス教育プログラム委員会（以下「委員会」という。）を置き、教務委員会と連携して、次の各号に掲げる役割を担うものとする。

- (1) 教育プログラムの立案、実施に関する事項
- (2) 教育プログラムの普及に関する事項
- (3) 教育プログラムの年次自己点検・評価と改善に関する事項
- (4) 教育プログラムの情報公開に関する事項
- (5) その他教育プログラムに関する重要事項

2 委員会は、以下の委員をもって組織する。

- (1) 学部長
- (2) 教務委員長
- (3) AI・情報系教員
- (4) その他、委員長が必要と認めた者

(委員長)

第3条 委員長は、委員の互選により選出する。

(自己点検責任者)

第4条 委員会は、教育プログラムの自己点検・評価を実施するため、委員長とは別に自己点検責任者を互選により選出する。

(対象の授業科目、単位数及び修了要件)

第5条 教育プログラムの対象となる授業科目、単位数及び修了要件は、委員会が別に定め、教授会の了承を得て、学長が決定する。

(修了認定)

第6条 教育プログラムに該当する授業科目の可否は教授会が判定し、学長が認定する。

2 教授会の判定結果に基づき、委員会が教育プログラムの修了を確認し、学長が認定を行う。

(修了証の交付)

第7条 学長は、委員会の修了認定に基づき、教育プログラムを修了した学生に修了証を交付する。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、委員会の議を経て教授会が承認し、学長が決定する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

大学等名	日本国際学園大学	申請レベル	応用基礎レベル（大学等単位）
教育プログラム名	日本国際学園大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和7年度

取組概要

プログラムの目的

データやAIを利活用する基礎的な素養の修得、課題解決のための基礎能力、専門分野への応用能力を身に付けるためのプログラムを設置し、数理・データサイエンス・AIの基礎的素養及び応用能力を持つ人材を育成すること。

身につけられる能力

リテラシーレベルの学修内容を発展させ、データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AIを活用し課題解決につなげる基礎能力を修得し、自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を獲得する。

修了要件

6科目12単位の単位取得により、修了を認定する。

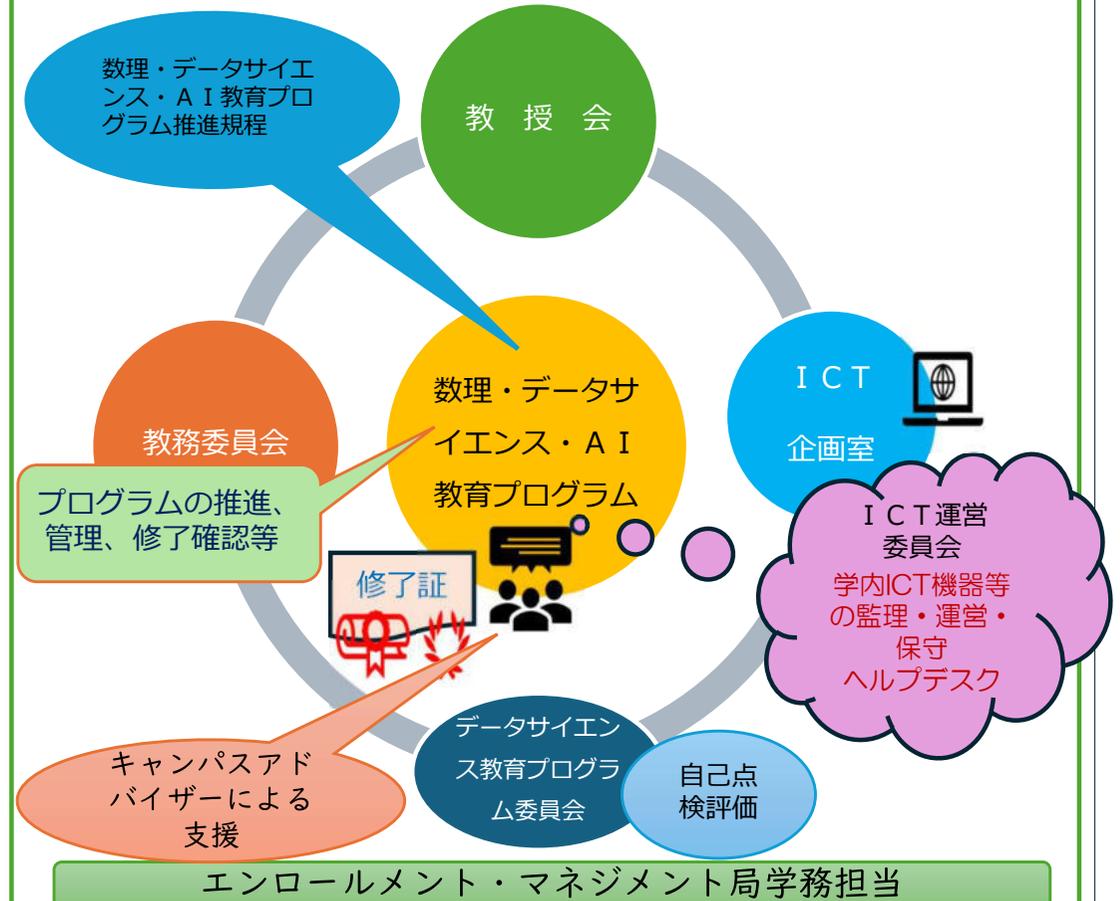
科目区分	授業科目名	単位数
ビジネススキル科目	データ分析と統計1	2
	データ分析と統計2	2
	情報倫理・情報セキュリティ	2
専門科目	ビジネス数理（データサイエンス）	2
	アルゴリズム	2
	AIの活用	2



数理・データサイエンス・AI教育プログラム

実施体制

教授会、教務委員会の下で「データサイエンス教育プログラム委員会」を中心に関係する部署等と連携し、学生の履修への支援を行う実施体制を構築している。



日本国際学園大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム卒業要件授業科目受講者数、単位修得者数等

1. 本教育プログラムの対象は、令和6（2024）年度入学生以降の学生とする。
2. 本教育プログラムは、文科省MDASH（リテラシーレベル）（応用基礎レベル）に準拠する。

【資料1】学生数の推移

令和6年度

令和6年5月1日現在

学部・学科	区分	学年		1年		2年		3年		4年		合計	
		男	女	(令和6年度入学)	(令和5年度入学)	(令和5年度入学)	(令和4年度入学)	(令和4年度入学)	(令和3年度以前入学)	(令和3年度以前入学)			
経営情報学部 ビジネスデザイン学科	男			88	38	47	(2)	111	(1)	284	(3)		
	女			38	9	8		41		96			
	計			126	47	55	(2)	152	(1)	380	(3)		

令和7年度

令和7年5月1日現在

学部・学科	区分	学年		1年		2年		3年		4年		合計	
		男	女	(令和7年度入学)	(令和6年度入学)	(令和6年度入学)	(令和5年度入学)	(令和5年度入学)	(令和4年度以前入学)	(令和4年度以前入学)			
経営情報学部 ビジネスデザイン学科	男			73	84	33	(1)	57	(1)	247	(2)		
	女			48	38	(2)	8	7		101	(2)		
	計			121	122	(2)	41	(1)	64	(1)	348	(4)	

※()は、休学者数を内数で示す。

【資料2】数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）卒業要件科目の履修者数・単位修得者数等

令和6年度

科目名	担当教員	履修者数・単位修得者数						単位修得率	
		2024入学		2023入学		2022入学以前		全履修学生 修得率	対象学生 修得率
		履修者数	修得者数	履修者数	修得者数	履修者数	修得者数		
データ分析と統計1	宝崎 隆祐			3	3	4	4	100.00%	
データ分析と統計2	アンドラウス セルヒオ			2	2	2	1	75.00%	
ビジネス数理1	宝崎 隆祐			2	2	0	0	100.00%	
情報倫理・情報セキュリティ	宗像 諭	49	46	4	2	2	0	87.27%	93.88%
	谷本 茂明	40	36	0	0	0	0	90.00%	90.00%
	丸山 雅貴	32	30	0	0	0	0	93.75%	93.75%
	計	121	112	4	2	2	0	89.76%	92.56%
アルゴリズム	谷本 茂明			5	4	2	2	85.71%	
AIの活用	丸山 雅貴			11	10	14	13	92.00%	

令和7年度（単位修得者数は、令和7年度春学期まで）

科目名	担当教員	履修者数・単位修得者数						単位修得率	
		2025入学		2024入学		2023入学以前		全履修学生 修得率	対象学生 修得率
		履修者数	修得者数	履修者数	修得者数	履修者数	修得者数		
データ分析と統計1	アンドラウス セルヒオ			53	29	9	2	50.00%	54.72%
	倉橋 節也			9	9	0	0	100.00%	100.00%
	計			62	38	9	2	56.34%	61.29%
データ分析と統計2	アンドラウス セルヒオ			18		2			
	倉橋 節也			3		0			
	計			21		2			
ビジネス数理（データサイエンス）	パンタ ポーラ			0		1			
情報倫理・情報セキュリティ	谷本 茂明			1	0	2	0	0.00%	0.00%
アルゴリズム	谷本 茂明			12		4			
AIの活用	丸山 雅貴			6		0			

【参考資料】数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）卒業要件科目の履修者数・単位修得者数等

※ 令和7年度春・夏学期終了時点にて、プログラム修了者（2人）を認定

令和6年度

科目名	担当教員	クラス	履修者数・単位修得者数						単位修得率	
			2024入学		2023入学		2022入学以前		全履修学生 修得率	対象学生 修得率
			履修者数	修得者数	履修者数	修得者数	履修者数	修得者数		
情報リテラシー	宗像 諭	④	19	17					89.47%	89.47%
	パンタポーラ	①②	48	47					97.92%	97.92%
	丸山 雅貴	⑤	11	11					100.00%	100.00%
	山島 一浩	留①②	24	22					91.67%	91.67%
	高藤 清美	留③	15	11					73.33%	73.33%
	計		117	108					92.31%	92.31%
情報と社会	宗像 諭	①	49	45	2	1	2	1	88.68%	91.84%
	丸山 雅貴	②	32	28	1	0	1	0	82.35%	87.50%
	谷本 茂明	留①②	39	35	0	0	0	0	89.74%	89.74%
	計		120	108	3	1	3	1	87.30%	90.00%

※人数は、令和6年度入学生のみ的人数を示す。

令和7年度（単位修得者数は、令和7年度春学期まで）

科目名	担当教員	クラス	履修者数・単位修得者数						単位修得率	
			2025入学		2024入学		2023入学以前		全履修学生 修得率	対象学生 修得率
			履修者数	修得者数	履修者数	修得者数	履修者数	修得者数		
情報リテラシー	笹島 司	①②	40	37	5	4	0	0	91.11%	91.11%
	山島 一浩	留①	21	21	0	0	0	0	100.00%	100.00%
	パンタポーラ	留②	24	15	4	4	0	0	67.86%	67.86%
	笹島 司	仙台	35	35	0	0	0	0	100.00%	100.00%
	計		120	108	9	8	0	0	89.92%	89.92%
情報と社会	丸山 雅貴	①②	40		5		4			
	谷本 茂明	留①②	45		2		0			
	倉橋 節也	仙台	35		0		0			
	計		120		7		4			
AI・データサイエンス概論	丸山 雅貴	①			4	2	0	0	50.00%	50.00%
	丸山 雅貴	②	50		3		0			
	倉橋 節也	仙台	23		4		0			
	計		73		11	2	0	13	17.86%	2.38%